

KORG

DS-8

DIGITAL SYNTHESIZER

取扱説明書

このたびは、KORG デジタルシンセサイザー DS-8 をお買い求めいただきまして、ありがとうございます。

DS-8の優れた機能を十分に活用していただくと共に、末長くご愛用いただくため、ご使用前にこの説明書をよくお読みください。

特長

1. デジタル音源採用

多彩な機能とハイコストパフォーマンスを実現したニュータイプの8ボイスデジタルシンセサイザーです。

2. 100音色プログラムメモリー

オリジナルプログラムも自由にエディットして、ストアしておくことも可能です。また同時に2つのプログラムをプレイできるレイヤーモード、鍵盤上のスプリットポイントを自由に設定できるダブルモード、また8つのプログラムを組み合わせでマルチモードを作ることができます。これらをコンビネーションプログラムとして10種類をメモリーできます。

3. マルチモード

8つのプログラムのMIDIチャンネルを別々に設定することで、シーケンサー(SQ-8など)を使ったマルチプレイを実現しました。8種類の楽器パートをDS-8 1台で演出することも可能です。

4. キータッチセンス機能

キーベロシティやアフタータッチ機能など、鍵盤を弾く強さで音色や音量の変化、ピッチモジュレーションなどをリアルタイムにコントロールします。

5. マルチエフェクト搭載

DS-8はマルチエフェクトを本体に内蔵しています。各プログラムごとにディレイ(ロング、ショート、ダブリング)、コーラス、フランジャー効果を自由に設定してメモリーしておくことが可能です。

6. パフォーマンスエディター採用

プレイ中に音色を変化させたり、キータッチセンスのON/OFFなどをパネル上のスイッチで行えます。また大型LCDディスプレイの採用で複雑なイメージのデジタルシンセサイザーをアナログ感覚でコントロールすることが可能になりました。

7. メモリーカード

オプションのRAMカード(MCR-01など)に100プログラム、10コンビネーションプログラムをメモリー。本体と合わせて200プログラム、20コンビネーションプログラムの中から自在にプログラムを呼び出すことができます。

8. アサインابلフットスイッチ、フットペダル機能

プログラムチェンジ、ボリュームコントロール、ダンパーペダルなど多彩なフットコントロール機能を搭載しています。

9. MIDI

MIDI機能も充実。プログラムチェンジ、コントローラー、データダンプなど豊富なMIDIメッセージを用意しました。

ご使用になる前に

■電源

電源コードのプラグは、かならずAC100Vの電源コンセントに差し込んでお使いください。お買い上げになった製品は国内仕様ですので100V以外の電源コンセントには絶対に接続しないでください。

■電気機器からの影響

本製品はマイクロコンピューターを使用した楽器です。このため近接してラジオやテレビなどを同時にご使用になりますと、それらに雑音が入る場合があります。ラジオ、テレビなどの機器からは十分に離してご使用ください。

■取り扱いはやさしく

スイッチやツマミに必要な以上の力を加えますと故障の原因となりますので注意してください。

■使用する場所

次のような場所で長時間ご使用になりますと、故障の原因となりますのでご注意ください。

- 直射日光が当たる場所
- 温度や湿度が非常に高い場所や低い場所
- 砂やホコリの多い場所

■お手入れ

外装のお手入れは、かならず乾いた柔かい布で軽く拭いてください。ベンジンやシンナー系の液体は絶対にご使用にならないでください。(コンパウンド質、強燃性のポリッシャーも不可)

■保証書の手続き

製品をお買い上げいただいた日より一年間は、保証期間となり、修理料金は無償となりますが、購入店での手続きがない場合は無効になります。かならずお求めになった販売店で、保証書に所定の手続きを行なった後、大切に保管してください。

■取扱説明書は大切に

今後の参照のために、この取扱説明書はお読みになった後も大切に保管してください。

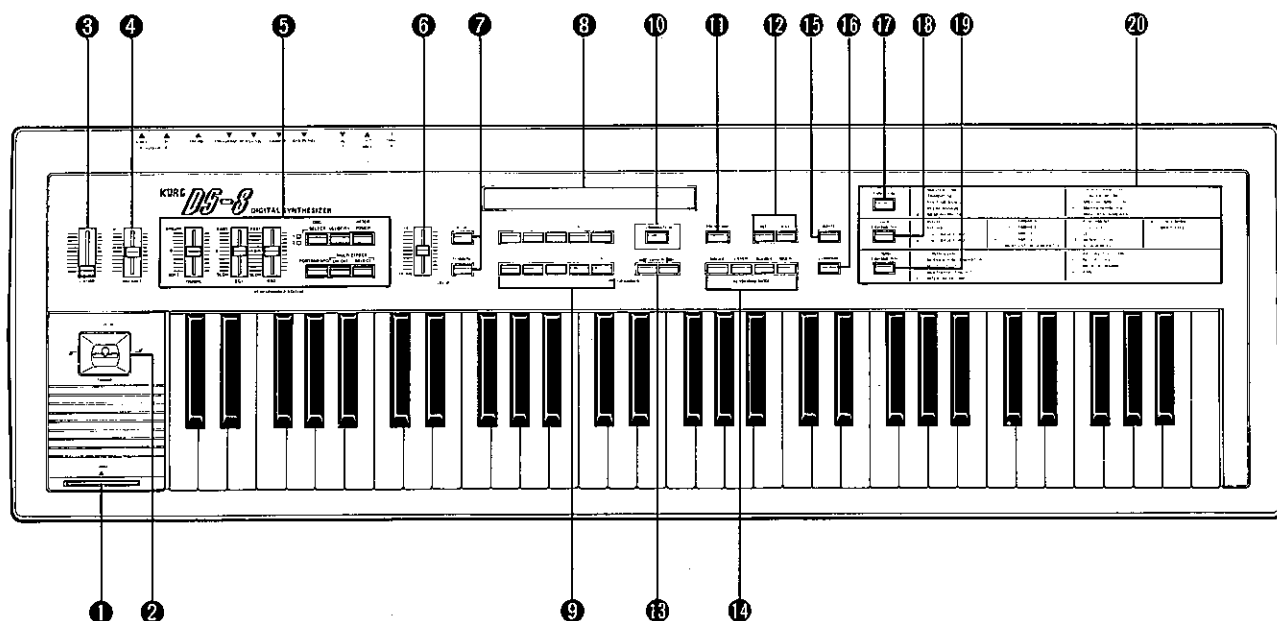
■バックアップバッテリーについて

DS-8では、電源オフの後メモリの内容が消滅するのを防ぐため、バックアップ用のバッテリーを装備しています。バッテリーの寿命は5年以上ですが、約5年を目安に交換を行う必要があります。交換の際は、最寄りの営業サービス係又は販売店にお問い合わせください。

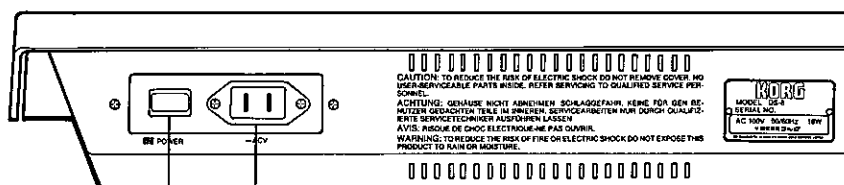
目次

コントロールパネル.....	1
リアパネル/ベーシックセットアップ	2
プログラムとコンビネーションプログラム	3
プログラム.....	3
プログラム呼び出し	3
コンビネーションプログラム	3
コンビネーションプログラムの呼び出し	4
プレイングファンクション(効果的な演奏のために).....	5
ジョイスティックの使い方	5
パフォーマンスエディターについて.....	5
リアパネルのコントロール端子.....	6
ペロシティー機能について	6
アフタータッチ機能について	6
サウンドクリエーション	7
プログラムのエディット	7
コンビネーションプログラムのエディット.....	7
プログラム、コンビネーションプログラムのライト.....	7
ボイスパラメーターモード	9
コンビパラメーターモード	14
ファンクションパラメーターモード.....	17
MIDI.....	20
MIDI IMPLEMENTATION.....	21
スペック/オプション	31
DS-8 VOICE NAME CHART.....	34
アフターサービス.....	35

コントロールパネル



- | | | |
|---------------------|--------------------|---------------|
| ① カードスロット | ⑧ LCD | ⑮ ライトキー |
| ② ジョイスティック | ⑨ ナンバーセレクトキー | ⑯ コンペアーキー |
| ③ ボリューム | ⑩ コンビネーションキー | ⑰ ファンクションキー |
| ④ バランス | ⑪ プログラムキー | ⑱ ボイスパラメーターキー |
| ⑤ パフォーマンスエディター | ⑫ インターナル、エクスターナルキー | ⑲ コンビパラメーターキー |
| ⑥ バリュースライダー | ⑬ カーソルキー | ⑳ パラメーターリスト |
| ⑦ UP/YES, DOWN/NOキー | ⑭ キーボードモードセレクトキー | |



① POWERスイッチ

電源スイッチです。

全ての接続を完了したら、本体のボリュームを下げたまま POWER スイッチを ON にします。

② ACコード

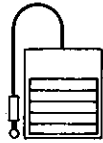
付属の AC コードをコンセントに差し込みます。



リアパネル/ベーシックセットアップ

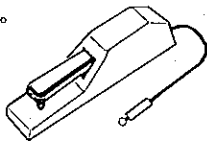
⑥ アサインブルスイッチ端子

フットスイッチを接続。プログラムダウン、パフォーマンスエディターなど各機能のON/OFFの中から一つを選んでコントロールできます。



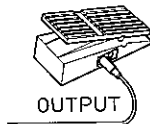
⑤ ダンパー端子

ダンパーペダルスイッチ(DS-1)を接続して、ダンパー効果を得ることができます。



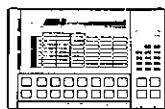
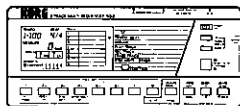
④ アサインブルペダル端子

フットコントローラーEXP-2を接続し、ボリュームや音色の変化、ピッチモジュレーションなどの中から一つを選択してコントロールします。



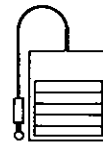
③ MIDI

MIDI ケーブル(15m 以内のもの)を使って各 MIDI 機器と接続します。



⑦ プログラムアップ端子

フットスイッチによるプログラムアップができます。



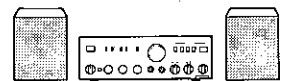
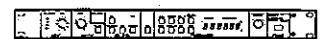
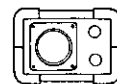
⑧ ヘッドフォン端子

ステレオヘッドフォンを接続します。




⑨ アウトプット端子 A/MIX, B

2つの出力端子を別々のアンプで再生することで、ステレオ効果が得られます。モノラルで使用する場合はA/MIXの端子だけを使用します。



KORG



【注】※フットスイッチはPS-1やPS-2など「」GNDタイプのものをご使用下さい。

プログラムとコンビネーションプログラム

●プログラム

DS-8は本体に100音色をメモリーすることができます。これらをインターナルプログラムと呼びます。さらにオプションのRAMカード(MCR-01など)によるプログラム(エクスターナルプログラム)の増設により、大容量のプログラムメモリーも可能です。

●プログラムの呼び出し

1. 電源投入後、LCDが次のように変化しプログラムモードに入ります。

***** KORG DS-8 *****
WELCOME TO SYNTH WORLD

I 00 Piano 1
MANUAL

2. インターナルプログラムを呼び出す場合はインターナルキーを押します。同様にエクスターナルキーを押すことでカードからのプログラムを呼び出せます。
3. ナンバーセレクトキーあるいはUP/YES DOWN/NOキーを使って、プログラムをセレクトします。00から99まで2桁の番号が対応します。
(例) プログラムNo.5を呼び出す時は、0を押してから5を押します。

I 05 El.Piano 3
MANUAL

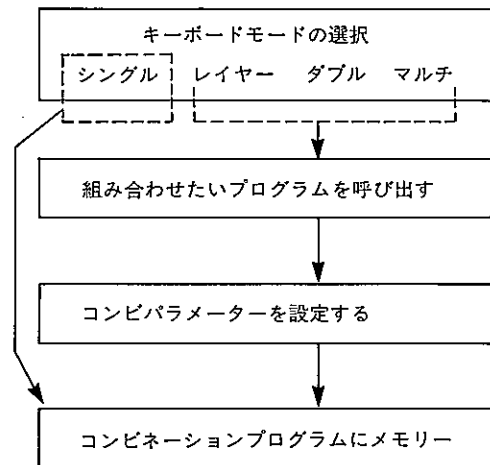
●コンビネーションプログラム

キーボードモードとコンビパラメーターについて
DS-8には、シングル、レイヤー、ダブル、マルチの4つのキーボードモードがあります。シングルは音色のエディットと対応しています。音色のエディットを行ないたい場合はキーボードモードを常にシングルに設定しておく必要があります。さらに、2つのプログラムを組み合わせるレイヤー、ダブルモード、また最大8つまでのプログラムを組み合わせるマルチモードを作ることができます。これらのキーボードモードの組み合わせに関係する様々なパラメーター(発音数の割り当て、マルチエフェクトの選択など)を自在に設定することが可能です。これらをコンビパラメーターと呼びます。(コンビパラメーターの機能と設定値については、後述の“コンビパラメーターモード”を参照して下さい。)

コンビネーションプログラムとは

キーボードモードの種類、組み合わせるプログラムナンバー、コンビパラメーターの設定値をエディットしてコンビネーションプログラムにメモリーしておくことが可能です。本体に10種類までメモリーすることができ、RAMカードにストックすることもできます。
シングルモードをコンビネーションプログラムにメモリーしておくことも可能です。

コンビネーションプログラム



キーボードモードの種類と機能

シングルモードは常に一つのプログラムで構成されていますが、その他のモードでは2つのプログラム(マルチモードでは8つまで)の組み合わせから構成されています。これらのプログラムをグループと呼ぶことにします。

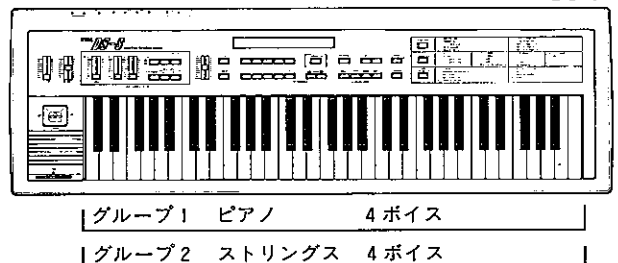
レイヤーモード:

レイヤーモードは2つのグループで構成され、2つのプログラムを同時にプレイすることができます。例えばグループ1にピアノ系の音色プログラムを、グループ2にストリング系プログラムをエントリーさせて、ピアノとストリングサウンドを同時に4音まで演奏することができます。

また、グループ1、グループ2の音色それぞれにプログラムされているアサインモードが異なる場合には、グループ2のアサインモードはグループ1の設定に従います。例えば、グループ1の音色のアサインモードがボリの場合は、グループ2の音色のアサインモードがユニゾンになっていても演奏時にはボリになります。

レイヤーモード

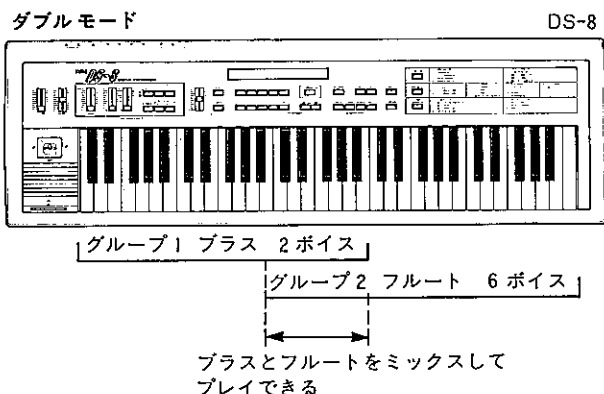
DS-8



ダブルモード:

ダブルモードは2つのグループで構成され、グループ1をキーボードの低域パートに、グループ2を高域パートに割り当てます。グループ1の発音範囲の上限と、グループ2の発音範囲の下限を自由に可変することで、単にキーボードを2つに分けるだけのスプリット効果では得られない多彩なプレイが可能です。さらにグループ1、2の音程をオクターブ単位で変化させたり、グループごとの発音ボイスを自由に設定できます。

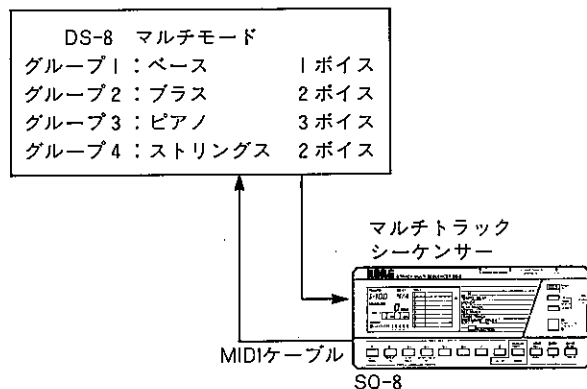
(例) グループ1にプラスのプログラム(2音)、グループ2にフルートのプログラム(6音)、を割り当てます。鍵盤の中央でグループ1とグループ2を重ね合わせることも可能です。フルートの発音レンジが高すぎた場合はオクターブシフトを使って希望する音程にセットします。



マルチモード：

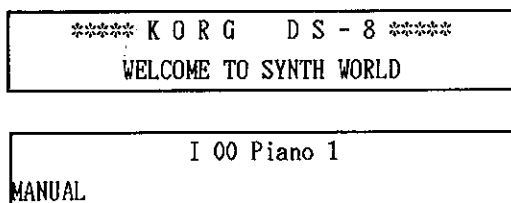
マルチモードは8つのグループからなります。DS-8の鍵盤上での演奏も可能ですがシーケンサー(SQ-8など、8トラック別々にMIDIチャンネルを設定できるタイプのもの)を使ったマルチプレイに効果的です。グループごとに別々の音色プログラムを割り当て、MIDIチャンネルを設定すれば最大8種類までの楽器パートを自動演奏させることもできます。

(DS-8は8音ポリフォニックです。従って8パートを同時に再生したい場合は1パート、1音になります。マルチモードではグループごとの発音ボイスを設定できるので、例えばグループ1をベース(1音)、グループ2をプラス(2音)、グループ3をピアノ(3音)、グループ4をストリング(2音)といったアンサンブル形式を自由にセットできます。)

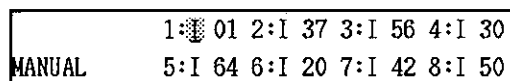
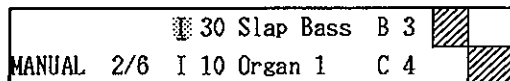
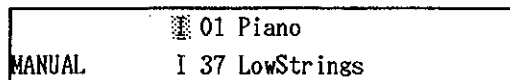


●コンビネーションプログラムの呼び出し

1. 電源投入後、LCDが次のように変化した、プログラムモードに入ります。

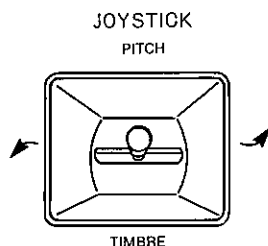


2. コンビネーションキーを押します。コンビネーションプログラムを呼び出すことが可能になります。
3. インターナルキー、エクスターナルキーを使って本体かカードのメモリーのいずれかを選択します。
4. ナンバーセレクトキーを使ってコンビネーションプログラムナンバーを選びます。ナンバーは0から9までです。



プレイングファンクション (効果的な演奏のために)

●ジョイスティック



ジョイスティックを上下、左右に動かして鍵盤全体のピッチを変えたり、音色をコントロールすることができます。

PITCH

上方向に動かすとビブラート効果が得られます。モジュレーションスピードも同時にボイスパラメーター02(JOYSTICK)の設定により変化させることができます。

(詳しくはボイスパラメーター 9、02を参照)

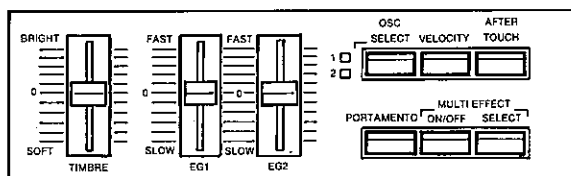
TIMBRE

下方向に動かすとワウワウ効果が得られます。PITCHと同様にモジュレーションスピードも変化させることができます。



左右に動かして鍵盤全体のピッチを変化させたり、音色をコントロールすることができます。右に倒すとピッチがあがったり、音色が明るく変換し、左に倒すとピッチが下がったり、音色がソフトに変換します。変換の幅はボイスパラメーター02で設定した値によって決定されます。ピッチの可変幅はBEND PITCHで、音色の変化の大きさはBEND TIMBで設定します。

●パフォーマンス エディター



プレイ中にボイスパラメーターを一時的に変更して音色を変えたり、マルチエフェクトを自由にセレクトしたりすることで演奏の表現力をさらに高めることができます。

電源投入直後やプログラム又はコンビネーションプログラムを呼び出した時には、常に次のような状態になっています。

ONの場合にインジケーターが点灯します。

OSC SELECT 1+2 (1,2のインジケーターが点灯)

VELOCITY ON

AFTER TOUCH ON

PORTAMENTO OFF (電源投入直後のみ)

MULTI EFFECT ON

MULTI EFFECT SELECT プログラムまたはコンビネーションプログラムで設定したマルチエフェクトがセレクトされています。

TIMBRE :

音色を変化させます。このスライダーを上動かすと音色が明るく、下に動かすとソフトになります。

EG 1 :

OSC 1のTIMBRE EG、AMPL EGのスピードを変化させます。このスライダーを上動かすとEGのスピードが全体的に速く、下に動かすと全体的に遅くなります。

EG 2 :

OSC 2のTIMBRE EG、AMPL EGのスピードを変化させます。機能はEG1と同様です。

上記のスライダーをセンター0の位置に合わせると、プログラムされている元の音色やEGのスピードになります。また、音色のプログラムのチェンジを行った場合にはスライダーの位置に関係なく元の状態となります。音色エディット時にもスライダーの位置に関係なく元の状態となります。

OSC SELECT :

このスイッチを押すごとに出力されるオシレーターを選択することができます。

VELOCITY :

VELOCITY効果のON/OFFを行います。

AFTER TOUCH :

AFTER TOUCH効果のON/OFFを行います。

PORTAMENTO :

PORTAMENTO効果のON/OFFを行います。

MULTI EFFECT ON/OFF :

マルチエフェクトのON/OFFを行います。

MULTI EFFECT SELECT :

マルチエフェクトの切り換えを行います。このスイッチを押すたびに次の様にマルチエフェクトのモードが切り換わります。

●プログラムされているマルチエフェクトがMANUALの場合
MANUAL → LONG DELAY → SHORT DELAY → DOUBLING
→ FLANGER → CHORUS → MANUAL

●プログラムされているマルチエフェクトがMANUAL以外の場合
LONG DELAY → SHORT DELAY → DOUBLING → FLANGER
→ CHORUS → LONG DELAY

現在選ばれているマルチエフェクトはLODに表示されます。

上記のスイッチがONになっていてもプログラムのボイスパラメーターの中で効果を0にしてある場合は、パフォーマンスエディターの効果は働きません。

また、これらのスイッチはプレイ中だけでなく、プログラムのエディット時にも効果を発揮できます。音作りの最初の段階で、ポルタメントやベロシティー、アフタータッチ機能を一時的に解除しておいたり、オシレーター1、2の音色を別々に作っていく場合にも、オシレーターの出力を切り換えることで、よりスムーズなエディットが可能になります。

●リアパネルのコントロール端子

ダンパー

DAMPER端子にダンパーペダルスイッチ(DS-1)を接続し、ピアノのダンパーペダルのように使うことができます。スイッチを踏んでいる間、鍵盤を押し続けているのと同じ効果が得られます。

プログラム アップ

PROGRAM UP端子にフットスイッチを接続すると、フットスイッチでプログラムナンバーを順番にプログラムアップさせることができます。

アサインابل スイッチ

ファンクションモードのパラメーター2で設定した機能をASS. SW端子に接続したフットスイッチを使って動かすことができます。

次の機能の中から選択します。

PROG DOWN	プログラムダウン
OSC SELECT	ON/OFF
VELOCITY	ON/OFF
MULTI EFFECT	ON/OFF
AFTER TOUCH	ON/OFF
PORTAMENTO	ON/OFF

PROG DOWNを選択した場合、フットスイッチを踏むたびにプログラムナンバーを順番にダウンさせることができます。その他の機能を選択した場合はパフォーマンスエディターの機能と全く同じ働きをします。例えば、VELOCITYを選択した場合は、フットスイッチでベロシティー効果をON/OFFすることも可能です。又、ポルタメントの効果はスイッチを踏んでいる間だけ効果がかかるようになっています。

アサインابل ペダル

ファンクションモードのパラメーター3で設定した機能をASS. PEDAL端子に接続したフットコントローラー(EXP-2)を使って動かすことができます。

次の機能から選択します。

VOLUME	：ボリューム (MIDIボリュームと共通)
TIMBRE	：ティンバー (パフォーマンスエディターと共通。ただし BRIGHT側のみ)
PITCH MG	：ピッチMG (ジョイスティックのPITCHと共通)
TIMBRE MG	：ティンバーMG (ジョイスティックのTIMBREと共通)

例えば、TIMBREを選択した場合、フットコントローラーを使って、音色を明るく変化させることができます。

ファンクションモードのパラメーターについては後述のファンクションモードを参照して下さい。

注) フットコントローラーの抜き差しは、電源ON時に行なうと誤動作を起こすことがありますので、必ず電源OFF時に行なして下さい。

●ベロシティー機能について

DS-8はキーを打鍵する強さによって、音量や音色を変化させることができるベロシティー機能をもっています。ベロシティーセンスの設定は、ボイスパラメーター 03 VELOCITYを使って行います。

●アフタータッチ機能について

キーを打鍵した後、さらにそのキーを強く押さえることで、弾いている音すべてにビブラート効果をかけたり、音色を明るくしたり、音量を大きくしたりすることができます。これをアフタータッチ機能と呼び、ボイスパラメーター 04 AFTER TOUCHで設定されたパラメーターによって効果の大きさを設定することができます。

注) 本製品は、デジタル音源を採用していますのでジョイスティックやアフタータッチなどで音色や音量などを急激に変化させると若干のデジタルノイズが聴こえる場合があります。

サウンドクリエーション

●プログラムのエディット

プログラムは基本的に2つのオシレーターから構成されています。それぞれのオシレーターについてピッチの設定、波形タイプの選択、出力のエンベロープを設定できます。

プログラムモードは常にキーボードモードのうちのシングルモードに対応します。レイヤー、ダブル、マルチモードの時にプログラムのエディットをすることはできません。キーボードモードをシングルモードにセットしてからボイスパラメーターを変更します。

プログラムを作るための要素となるボイスパラメーターが用意されています。これらをLCDの表示をチェックしながら希望する数値に設定していきます。詳しい特長と数値は次のボイスパラメーターの項を参照して下さい。

コンペアーキーの使い方

ボイスパラメーターをエディットしている際、変更する前の音と比較したい場合、このキーを押すと変更する前のプログラムの音をモニターすることができます。もう一度キーを押すと現在エディット中のプログラムに戻ります。

(例)エディット中の表示

PITCH	OSC1	OSC2	PTN
1	_2	4	3

コンペアーキーを押すと下記の表示になります。

コンペアーの表示

PITCH	OSC1	OSC2	PTN
1	_1	2	3

パラメーターの設定の仕方

1. プログラムキーを押してプログラムモードに入ります。エディットしたいプログラムナンバーをナンバーセレクトキーを使って選択します。
2. ボイスパラメーターキーを押します。ナンバーセレクトキーを使って希望するボイスパラメーターを選びます。
3. 変更したいパラメーター値にカーソルキーを使って、カーソルを移動させます。
4. バリュースライダー、UP/YESキー、DOWN/NOキーを使って数値を変更します。

※バリュースライダーは、数値をスピーディーに連続的に可変することができます。またUP/YES、DOWN/NOキーは数値を1ステップずつ可変させたり、パラメーター内のメッセージに回答する時に使います。

●コンビネーションプログラムのエディット

プログラムを組み合わせたコンビネーションプログラムもエディットすることができます。

始めに希望するキーボードモードを選択し、組み合わせたいプログラムを選びます。次にコンビパラメーターキーを押して変更したいコンビパラメーターを選びます。パラメーターの変更の仕方はボイスパラメーターの設定と同様に行います。

●プログラム、コンビネーションプログラムのライト

エディットしたプログラムやコンビネーションプログラムを本体やRAMカードにメモリーすることで、オリジナルのデータを保存しておくことが可能です。

プログラム ライト

キーボードモードがシングルの状態で、プログラムモードの時にボイスパラメーターモードの時にのみ可能です。

1. ライトキーを押すと、次の様にLCDが表示されます。

VOICE PARAMETER WRITE

I 00 → 3 **

2. インターナルキーまたはエクスターナルキーを押して、本体かRAMカードのどちらにメモリーするかを選択します。
3. ナンバーセレクトキーを使ってメモリーしたいプログラムのナンバーを設定します。LCDが次の様になります。

VOICE PARAMETER WRITE

I 00 → I 12 SURE ?

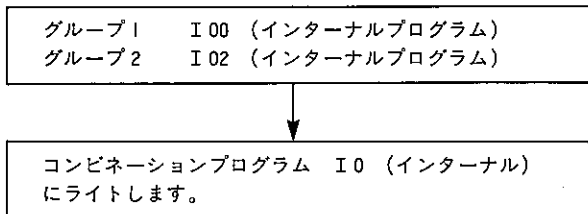
4. この時点でライトを中止したい場合はDOWN/NOキーを押します。
5. UP/YESキーを押すとライトが完了し、プログラムモードに戻ります。

コンビネーションプログラムのライト

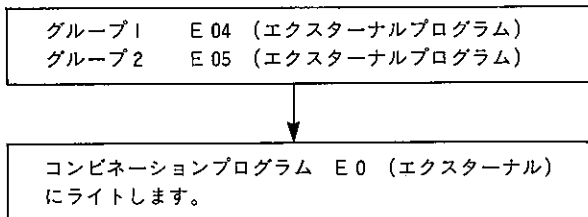
コンビネーションプログラムモードの時に、コンビパラメーターモードの時にのみ可能です。前述したように、キーボードモードがシングルモードの場合でもコンビネーションプログラムのメモリーが可能です。

キーボードモードがレイヤー、ダブル、マルチモードの場合、プログラムをインターナル、エクスターナルどちらのメモリー領域からも呼び出して組み合わせることが可能ですが、コンビネーションプログラムにメモリーする場合は、組み合わせるプログラムを必ず同一のメモリー領域からのものに統一して下さい。

(例1)キーボードモード、レイヤーの場合
(本体にメモリーする)



(例2)キーボードモード、ダブルの場合
(RAMカードにメモリーする)



図のようにコンビネーションプログラムを本体にメモリーする場合は、各キーボードモードに組み合わせるプログラムも全てインターナル(本体の)プログラムに統一します。RAMカードにメモリーする場合も同様に、各グループをエクスターナルプログラムから選択して下さい。

1. ライトキーを押します。次の様にLCDが表示されます。

COMBI PARAMETER WRITE I 0 → * *

2. インターナルキー、エクスターナルキーを使って、本体かRAMカードのどちらにメモリーするかを選択します。
前述したようにインターナルプログラムの組み合わせによるキーボードモードは本体のコンビネーションプログラムにのみメモリー可能です。
3. ナンバーセレクトキーを使ってコンビネーションプログラムナンバーを指定します。LCDが次の様になります。

COMBI PARAMETER WRITE I 0 → I 9 SURE ?

4. この時点でライトを中止する場合は、DOWN/NOキーを押します。
5. 3. でコンビネーションプログラムナンバーを指定した後、UP/YESキーを押すとライトが完了します。

注) 購入したばかりのRAMカードには、そのままではプログラム及びコンビネーションプログラムのライトを行うことができません。使用する前にあらかじめRAMカードのフォーマットを行う必要があります。フォーマットの方法についてはファンクションモードのパラメータ 5 SAVE TO RAM CARDの項を参照してください。

ボイスパラメーターモード

プログラムを作るための基本となるパラメーターです。
パラメーター1～9はプログラムの音色を決定するOSC 1、2のピッチや波形などを設定し、パラメーター01～07ではプログラムタイトルの作成や各プログラムごとにジョイスティックの効果の大きさを設定したり、マルチエフェクト機能を割り当てることができます。
プログラムをエディットする時は、キーボードモードをシングルモードにセットして下さい。ボイスパラメーターキーを押して、ナンバーセレクトキーを使って各パラメーターを呼び出します。以下、パラメーターの特長と数値を説明します。

1. PITCH

PITCH	OSC1	OSC2	DTN
1	2	4	3

OSC1(0.5～15) :

OSC2(0.5～15) :

オシレーターの基本となるピッチを設定します。1＝8フィートを基準としています。数値を大きくするほど高いピッチが得られます。

0.5	16フィート (基準の1/2のピッチ)
1	8フィート
2	4フィート (2倍のピッチ)
3	2 $\frac{2}{3}$ フィート (3倍のピッチ)
4	2フィート (4倍のピッチ)
⋮	⋮

DTN(0～3) (ディチューン) :

OSC1、2間のチューニングをわずかにずらすことでディチューン効果が得られます。0で効果がなく、3で効果が最大になります。

2. PITCH EG

PITCH EG	STL	ATK	ATL	DEC	REL	RLL
2	0	47	+6	25	37	-2

オシレーターの音程を時間的に変化させるセクションです。レベルは-63～+63の範囲で設定することができ、0で鍵盤の位置の音程となります。タイムは0～63の範囲で設定することができ0で変化の時間が最も速く、63で最も遅くなります。

PITCH EGの効果を必要としない場合にはレベルを全て0に設定します。

STL (スタートレベル) :

鍵盤を押した瞬間の音程です。

ATK (アタックタイム) :

STLからATLまでの到達時間です。

ATL (アタックレベル) :

アタックの到達する音程です。

DEC (ディケイタイム) :

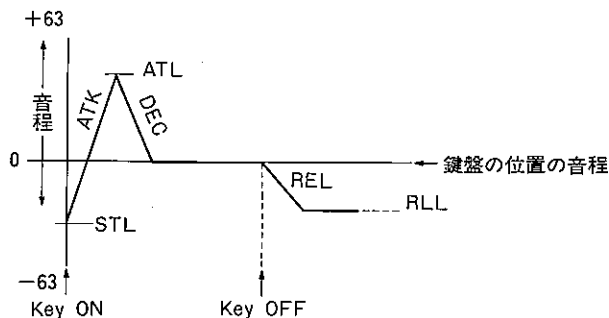
ATLから鍵盤の位置の音程までの到達時間です。

REL (リリースタイム) :

鍵盤を離した後、RLLまでの到達時間です。

RLL (リリースレベル) :

鍵盤を離した後にリリースの到達する音程です。



3. OSC 1 WAVEFORM

WFRM 1	TYPE	SPCT	RING	LIMIT	KBD
3	2	3	0	OFF	1

オシレーター1の波形を組み立てるセクションです。

TYPE(タイプ) :

波形の基本となるタイプを4つの中から選択します。

タイプ1 : 鋸歯状波系の波形

タイプ2 : 矩形波系の波形

タイプ3 : ブライトな感じの鋸歯状波系の波形

タイプ4 : ブライトな感じの矩形波系の波形

SPCT(1～8) (スペクトラム) :

基本の波形に対する倍音成分の設定を行います。1で最も低い倍音成分、8で最も高い倍音成分を与えることができます。スペクトラムは基本となるピッチと密接な関係をもっていますので、スペクトラムとピッチの組み合わせによっては全体のピッチが上下に移動して聴こえる場合があります。

RING(0～3) (リング) :

基本の波形に対して、リングモジュレーションのような効果を与えます。0で効果がなく、1～3でそれぞれ異なった効果を得ることができます。

LIMIT(ON/OFF) (リミッター) :

TIMBRE EGやジョイスティック、ペロシティー、アフタータッチで波形を変化させた時の変化の幅に対するリミッターのON/OFFの設定を行います。

OFFの場合はノイズがかかったクセのある波形まで変化します。タイプ3、4ではノイズまで変化しますが、ONにするとその手前までの変化となります。

KBD(0~3) (キーボードトラック):

波形を鍵盤の位置にしたがって変化させる量の設定を行います。

値を0から3へ可変するのにしたがって高音部では波形が鋭く、低音部では波形が柔らかく変化します。

4. OSC 2 WAVEFORM

WFRM 2	TYPE	SPCT	RING	LIMIT	KBD
4	<u>X</u> MOD	2	1	0	N 3

オシレーター2の波形を組み立てるセクションです。基本的な機能はOSCI WAVE FORMと同じですが、TYPEが以下のようにになります。

タイプ1: 鋸歯状波系の波形

タイプ2: 矩形波系の波形

XMOD: オシレーター1の出力でオシレーター2に変調をかけるモード(この場合オシレーター1は出力されません。)

5. OSC 1 TIMBRE EG

T. EG1	TIMB	INT	ATK	DEC	SUS	REL	KBD
5	<u>5</u> 6	12	47	20	10	6	1

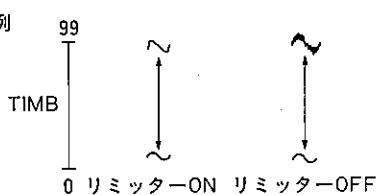
オシレーター1の波形を時間的に変化させるセクションです。

TIMB(0~99) (ティンバー):

波形の変化の幅を設定します。

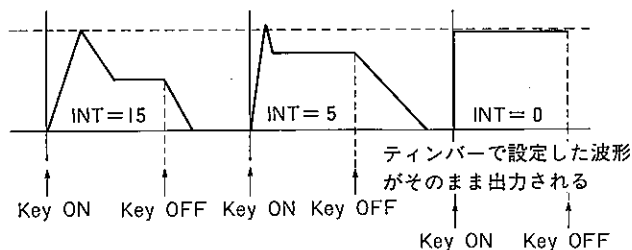
0で正弦波となり99へ可変するにしたがって、徐々に波形が鋭くなり99でノイズがかったクセのある波形になります。(タイプ3,4ではノイズになります。)ただしOSCI WAVEFORMのセクションでリミッターをONにした場合、値を99に設定しても、ノイズまでの変化にはなりません。

タイプ3の例



INT(0~15) (インテンシティー):

TIMBRE EGのかかり具合を設定します。0でEGの効果がなく常にティンバーで設定した波形がそのまま出力されます。15でEGの効果が最大になります。



ATK(0~31) (アタックタイム):

鍵盤を押した瞬間から波形が正弦波からティンバーで設定した波形まで変化する時間です。0で変化の時間が最も速く31で最も遅くなります。

DEC(0~31) (ディケイタイム):

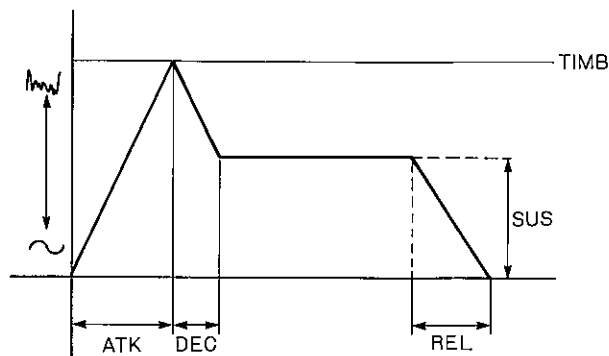
ティンバーで設定した波形からSUSで設定する波形まで変化する時間です。0で変化の時間が最も速く31で最も遅くなります。

SUS(0~15) (サステーンレベル):

ディケイ終了後の波形を設定します。0で正弦波、15でティンバーで設定した波形となります。

REL(0~15) (リリースタイム):

鍵盤を離れた後、正弦波まで変化する時間です。0で変化の時間が最も速く15で最も遅くなります。



KBD(0~3) (キーボードトラック):

TIMBRE EGのスピードを鍵盤の位置にしたがって変化させます。値を大きくするにしたがって高音部ではEGスピードが速くなり低音部では遅くなります。

6. OSC 2 TIMBRE EG

T. EG2	TIMB	INT	ATK	DEC	SUS	REL	KBD
6	<u>5</u> 6	12	47	20	10	6	1

オシレーター2の波形を時間的に変化させるセクションです。基本的な機能はOSCI TIMBRE EGと同じです。

7. OSC 1 AMPL EG

A. EG1	LEVL	ATK	DEC	SUS	REL	KBD
7	<u>6</u> 1	23	17	12	14	1

オシレーターの出力を時間的に変化させるセクションです。

LEVL(0~63) (レベル):

音量の設定を行います。値に比例して音量が大きくなります。

ATK(0~31) (アタックタイム):

音の立ち上がり決定します。打鍵してから出力が設定した音量まで変化する時間です。値を大きくするほど時間が長くなります。

DEC(0~31) (ディケイタイム):

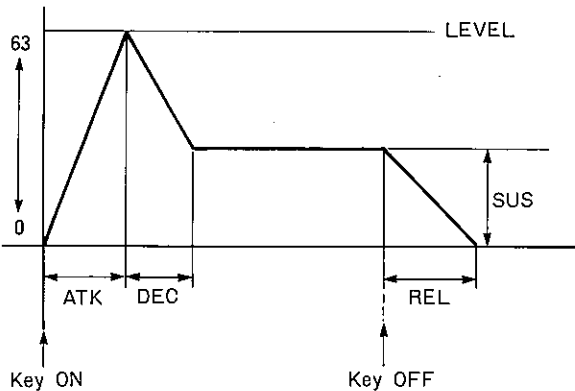
レベルで設定した音量からSUSで設定した音量まで変化する時間です。値を大きくするほど時間が長くなります。0で変化の時間が最も速く、31で最も遅くなります。

SUS(0~15) (サステーンレベル) :

ディケイ終了後、鍵盤を押している間鳴り続ける音量を設定します。0で音量がなく、値を大きくするほど音量が大きくなります。

REL(0~15) (リリースタイム) :

余韻の残り方を決定します。鍵盤を離した後、音量が消えるまでの時間です。0で変化の時間が最も速く、値を大きくするほど時間が長くなります。



KBD(0~3) :

AMPL EGのスピードを鍵盤の位置にしたがって変化させます。値を大きくするにしたがって高音部ではEGスピードが速くなり、低音部では遅くなります。

注) 音色の設定によっては和音で演奏した時に音が歪むことがありますので、その場合には、OSC1 AMPL EG、OSC2 AMPL EGのレベルをさげて下さい。

8. OSC 2 AMPL EG

A. EG2	LEVL	ATK	DEC	SUS	REL	KBD
8	<u>61</u>	23	17	12	14	1

オシレーター2の出力を時間的に変化させるセクションです。基本的な機能はOSC1 AMPL EGと同じです。

9. MODULATION GENERATOR

MG	WF	FREQ	DLY	PTCH	T/A	TSEL	ASEL
9	<u>TRI</u>	33	2	17	23	OFF	1+2

ピッチや音色・音量に対するモジュレーションの効果を設定します。

WF (ウェーブ フォーム) :

モジュレーションジェネレーターの波形の設定をします。次の4つの波形があります。

- TRI : 三角波
- SAW : 鋸歯状波
- SQUR : 矩形波
- S/H : サンプル&ホールド

FREQ(0~63) (フリークエンシー) :

モジュレーションのスピードです。0~63の範囲で設定でき、値に比例してスピードが速くなります。

DLY(0~31) (ディレイ タイム) :

鍵盤を押してからモジュレーションの効果がかかるまでの時間です。0で打鍵後、すぐにモジュレーションがかかり、値を大きくするほど効果がかかるまでの時間が長くなります。

PTCH(0~63) (ピッチ) :

ビブラート効果の深さを設定します。値を大きくするほど効果が深くなります。

T/A(0~63) (ティンバー/アンプ) :

ワウワウ/トレモロ効果の深さを設定します。

TSEL (ティンバーセレクト) :

ワウワウ効果をかけたいオシレーターを選択します。

OFF...どちらのオシレーターにも効果がかかりません。

1...オシレーター1のみに効果が掛かります。

2...オシレーター2のみに効果が掛かります。

1+2...オシレーター1,2両方に効果が掛かります。

ASEL (アンプセレクト) :

トレモロ効果をかけたいオシレーターを選択します。

OFF...どちらのオシレーターにも効果がかかりません。

1...オシレーター1のみ効果が掛かります。

2...オシレーター2のみ効果が掛かります。

1+2...オシレーター1,2両方に効果が掛かります。

01. PORTAMENTO

PORTAMENTO	MODE	TIME
01	<u>1</u>	32

ポルタメント効果の設定を行うセクションです。

MODE (モード) :

ポルタメントのかかり方を設定します。モードはアサインモードによって効果が異なります。

	アサインモード ポリ	アサインモード ユニゾン
MODE 1	ボイスごとに前に押された鍵盤の音程を記憶して、その音程からのポルタメント効果が掛かります。したがって、ランダムにポルタメントが掛かります。	常に前に押された鍵盤の音程からポルタメントが掛かります。
MODE 2	一番最後に押された鍵盤の音程からポルタメント効果が掛かります。和音演奏時などに効果的。	鍵盤を押したまま他の鍵盤を押した時(レガート奏法)のみポルタメントが掛かります。

TIME(0~63) (タイム) :

ポルタメントのスピードを設定します。

02. JOY STICK

ジョイスティックの効果の大きさを設定するセクションです。

JOYSTICK	BEND: PITCH	TIMB	MOD: SPEED
02	<u>3</u>	3	2

BEND PITCH(0~12) :

ピッチの可変幅を設定します。1ステップが1半音=100セントにあたり、12に設定すると1オクターブのピッチシフトが可能です。

BEND TIMB(0~3) :

ベンドによる音色の変化の大きさを設定します。値を大きくするほど変化も大きくなります。

MOD SPEED(0~3) :

モジュレーション(ビブラート、ワウワウ効果)のスピードを設定します。1~3に設定すると、ジョイスティックをPITCH、TIMBRE方向に倒す深さによってモジュレーションのスピードを速くすることができます。3でスピードの変化幅が最大になります。

03. VELOCITY

VELOCITY	TEG1	TEG2	AEG1	AEG2
03	3	4	3	7

タッチセンスの効き具合を設定するセクションです。0で効果がなく、値を大きくするほど効果が大きくなります。

TEG1(0~7) (OSC1 TIMBRE EG) :
オシレーター1の音色を変化させます。

TEG2(0~7) (OSC2 TIMBRE EG) :
オシレーター2の音色を変化させます。

AEG1(0~7) (OSC1 AMPL EG) :
オシレーター1の音量を変化させます。

AEG2(0~7) (OSC2 AMPL EG) :
オシレーター2の音量を変化させます。

04. AFTER TOUCH

AFT TOUCH	PMG	TIMB	AMP1	AMP2
04	0	0	1	0

アフタータッチの効果の大きさを設定します。0で効果がなく、値を大きくするほど効果が大きくなります。

PMG(0~3) (ピッチ MG) :
ピッチ MGのアフタータッチによる効き具合を設定します。

TIMB(0~3) (ティンバー) :
音色のアフタータッチによる変化の幅を設定します。値を大きくするほど音色の変化が大きくなります。

AMP1(0~3) (OSC 1 アンプレベル) :
オシレーター1の音量のアフタータッチによる変化の幅を設定します。

AMP2(0~3) (OSC 2 アンプレベル) :
オシレーター2の音量のアフタータッチによる変化の幅を設定します。

05. ASSIGN MODE

ASSIGN MODE
05 POLY

ASSIGN MODE	TRIG	DETUNE
05 UNISON	MULTI	0

鍵盤やMIDIによる鍵盤情報に対して、どのボイスを発音させるかというアサインの方法を設定するセクションです。

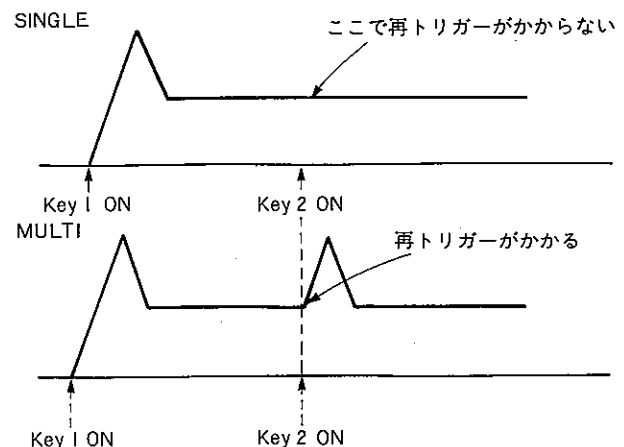
MODE (モード) :

アサインの方法を設定します。

POLY、UNISONが設定できます。POLYでは1つの鍵盤情報に対して1ボイスを割り合ってます。8音までの和音の演奏ができます。UNISONでは1つの鍵盤情報に対して全てのボイスを割り当てることで、モノフォニックシンセサイザーとして機能します。

TRIG (トリガー) :

UNISON時に鍵盤ONに対するトリガーを設定します。SINGLE、MULTIが設定できます。SINGLE、MULTIは下図のように作動します。



DETUNE (0~3) (ディチューン) :

UNISON時に8ボイス間のディチューンを設定します。値を大きくするにつれて、8ボイスのピッチのずれが大きくなり、厚みのある音をつくることができます。

06. VOICE NAME

VOICE NAME
06 Strings 1

音色プログラムのタイトルを作成します。カーソル上の文字を変更することができます。次ページのキャラクターチャートの中からバリュースライダー、UP/YESキー、DOWN/NOキーを使って文字を選択します。10文字までのタイトルをつけることが可能です。

	!	"	#	\$	%	&	'	()	*	+
,	-	.	/	0	1	2	3	4	5	6	7
8	9	:	;	<	=	>	?	¿	A	B	C
D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[
¥]	^	_	`	a	b	c	d	e	f	g
h	i	j	k	l	m	n	o	p	q	r	s
t	u	v	w	x	y	z	{		}	→	←

07 MULTI EFFECT

MULTI EFFECT	TIME	FB	MFRQ	MINT	LEVEL
07 MANUAL DLY	720.	+14	12	0	15

MULTI EFFECT	TIME	FB	LEVEL
07 LONG DLY	450.	+13	14

MULTI EFFECT	TIME	FB	LEVEL
07 SHORT DLY	40.0	0	14

MULTI EFFECT	TIME	LEVEL
07 DOUBLING	20.0	14

MULTI EFFECT	MANU	FB	SPED	DPTH	LEVEL
07 FLANGER	1.00	+14	15	31	14

MULTI EFFECT	MANU	SPED	DPTH	LEVEL
07 CHORUS	10.0	18	26	14

マルチエフェクトの設定を行うセクションです。

MODE (モード) :

マルチエフェクトのモードを設定します。モードは次のものから選択できます。

マニュアルディレイ
ロングディレイ
ショートディレイ
ダブリング
フランジャー
コーラス

TIME (ディレイタイム) :

MANU (マニュアル) :

設定するモードによって名称は異なりますが機能は同じものです。ディレイタイムを設定します。マニュアルディレイ時には、0.04ms~850msの範囲で可変でき、それ以外のモードでは、それぞれに最も適した範囲での可変ができます。

FB (フィードバック) :

マニュアルディレイ、フランジャーモードの場合は、-15~+15の範囲で設定できます。ロングディレイ、ショートディレイモードの時は0~+15の範囲の可変ができます。いずれの場合もディレイのフィードバック量を決定します。

注) フランジャー効果の時、値を-15、+15の最大値に設定した場合、プログラムの音色によっては、発振を起こすことがありますので、その場合は、値を下げて御使用ください。

MFRQ (モジュレーションフリケンシー) :

SPED (スピード) :

名称は異なりますが機能はどちらも同じものです。ディレイタイムに変調をかける発振器の周波数を設定します。0で周波数が最も遅く、値を大きくするほど速くなります。

マニュアルディレイ時には0~31の範囲の可変ができ、それ以外のモードでは、それぞれに最も適した範囲での可変ができます。

MINT (モジュレーションインテンシティ) :

DPTH (デプス) :

名称は異なりますが機能はどちらも同じものです。ディレイタイムの変調の深さを設定します。0で効果がなく、値を大きくするほど効果が深くなります。

マニュアルディレイ時には0~31の範囲の可変ができ、それ以外のモードでは、それぞれに最も適した範囲での可変ができます。

LEVEL (エフェクトレベル) :

ダイレクト音にミックスするエフェクト音の音量を設定します。0~15の範囲の可変ができ、0で効果がなく値を大きくするほどエフェクト音が大きくなります。

コンビパラメーターモード

コンビパラメーターキーを押してこのモードに入ります。キーボードモードがレイヤー、ダブル、マルチの各モードに設定されている時にそこで選択されているプログラム同志の状態を設定するモードです。コンビパラメーターはエディットしてコンビネーションプログラムにメモリーしておくことができます。

各コンビパラメーターは、キーボードモードの種類によって設定可能なものと、できないものがあります。設定できないパラメーターを選択した場合は次のようにLCDに表示されます。

UNAVAIL IN THIS KBD MODE

JOB	SINGLE	LAYER	DOUBLE	MULTI
#0:CONTROLLER	×	○	○	○
#1:MODULATION GENERATOR	×	○	○	○
#2:MULTI EFFECT	×	○	○	○
#3:MULTI EFFECT IN/OUT	×	○	○	○
#4:INTERVAL/DETUNE	×	○	○	×
#5:KEY SPLIT/OCT SHIFT	×	×	○	×
#6:NO. OF. VOICES	×	×	○	○
#7:RECEIVE CHANNEL	×	×	×	○
#8:PAN	×	○	○	○

次に、各パラメーターの特長と数値を説明していきます。()内に示されたキーボードモードのみが、そのパラメーターに有効となります。例えば、7 RECEIVE CHANNEL(MULTI)の場合、MULTIモードの時のみ、このパラメーターが有効ということになります。

0.CONTOROLLER (LAYER、DOUBLE、MULTI)

レイヤー、ダブルモードからこのコンビパラメーターに入った場合は、LCDの表示が次のようになります。

CNTRL SOURCE 1:0 N 2:OFF
0 _1

また、マルチモードの時は次の様になります。

CNTRL SOURCE 1:0 N 2:0 N 3:0 N 4:0 N
0 _1 5:0 N 6:0 N 7:0 N 8:0 N

選択したグループのいずれかのコントローラーの効果を一つだけ設定して、コンビネーションプログラムに割り当てることとなります。例えばレイヤーモードでグループ1のコントローラーを選んだ場合、その時のピッチベンド幅が2に設定されていると、グループ2側のプログラムのピッチベンドが12に設定されていたとしても、そのコンビネーションプログラム全体のピッチベンドの幅は2に限定されることとなります。

SOURCE(ソース)

コントローラーの効果をどのグループのものに設定するかを選択します。レイヤー、ダブルモードの場合は、グループ1、2の中から、マルチモードの場合はグループ1～8の中から選びます。対象となるコントローラー類は、ジョイスティック(ベンドピッチ、ベンドティンバー、モジュレーションスピード)とアフタータッチ(ピッチMG、ティンバー、アンプ)です。

また、マルチモードの場合ソースで選択したグループのレシーブチャンネルでのみジョイスティックとアフタータッチのデータをMIDIで受信し、全てのグループに効果を与えます。

ON/OFF

各グループごとにソースで設定したコントローラーの効果をかけるか、かけないかを設定します。例えば、ダブルモードでアップパー側のプログラム(グループ2)にはピッチベンドをかけたいが、ロウアー側のプログラム(グループ1)にはかけたくない時、グループ1側のコントローラーをOFFにすると、アップパー側のみにピッチベンド効果を加えることが可能です。対象となるコントローラー類は、ピッチベンダー、アフタータッチ、ダンパーです。

1.MODULATION GENERATOR (LAYER、DOUBLE、MULTI)

レイヤー、ダブルモードからこのパラメーターに入った場合は、LCDの表示が次のようになります。

MG SOURCE 1:0 N 2:OFF
1 _1

マルチモードからこのパラメーターに入った場合は、LCDの表示が次の様になります。

MG SOURCE 1:ON 2:ON 3:ON 4:ON
1 _1 5:ON 6:ON 7:ON 8:ON

コンビパラメーター0、CONTROLLERの場合と同様に、グループの中からいずれかのモジュレーションジェネレーターの効果を選択して、コンビネーションプログラム全体に設定することとなります。

SOURCE(ソース)

モジュレーションジェネレーターの効果をもどのグループから選択するかを設定します。レイヤー、ダブルモードの場合は、グループ1、2の中から、マルチモードの場合はグループ1～8の中から選びます。

ON/OFF

各グループごとにソースで設定したモジュレーションジェネレーターの効果のON/OFFを設定します。ONにしたグループにのみ効果を与えることができます。

2.MULTI EFFECT (LAYER、DOUBLE、MULTI)

M.EFFECT	SOURCE	MODE
2	1	MANUAL

マルチエフェクトの種類をどのグループのものにするか、または、プリセットされたマルチエフェクトの中から選ぶかを設定します。

例えば、レイヤーモードでグループ1のマルチエフェクトを選択（ソースを1にする）した場合、グループ1のマルチエフェクトがこのレイヤーモードのマルチエフェクトとして機能します。また新たにプリセットされたマルチエフェクトを選択（ソースをCOMBIに設定する）した場合は、グループ1、2のマルチエフェクトに代って、新しいマルチエフェクトが機能することになります。

SOURCE(ソース)

マルチエフェクトをどのグループから選択するかを設定します(グループ1～8)。COMBIにすると次のMODEで設定されているマルチエフェクトから選択できます。

MODE(モード)

ソースでCOMBIを設定した時にのみ、次のマルチエフェクトの効果を選択することができます。

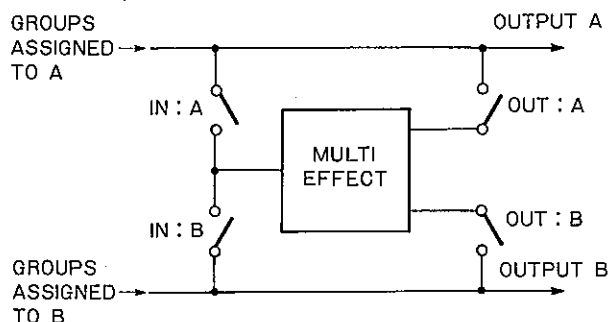
LNGDLY (ロングディレイ)
SHRDLY (ショートディレイ)
DBLING (ダブルリング)
FLNGER (フランジャー)
CHORUS (コーラス)

これらのマルチエフェクトはプリセットされています。ボイスパラメーター07 MULTI EFFECTのように数値をエディットすることはできません。

3.MULTI EFFECT IN/OUT (LAYER、DOUBLE、MULTI)

M.EFFECT	I N	OUT
3	A+B	A

2.MULTI EFFECTで選択したマルチエフェクトの入力、出力を切り換えるセクションです。DS-8は出力をA、Bの2チャンネル持っていますが、このセクションではそのチャンネルに対してマルチエフェクトをどのように接続するかを設定することができます。コンビパラメーター8. PANで設定された出力チャンネル(A、B、A+B)に従って各グループがマルチエフェクトに入力されてOUTPUT A、Bに出力されることになります。



IN

マルチエフェクトに入力されるチャンネルを設定します。A、B、A+Bが選択できます。

OUT

マルチエフェクトの出力の設定をします。A、B、A+Bが選択できます。

4.INTERVAL/DETUNE (LAYER、DOUBLE)

	INTERVAL	DETUNE
4	0	2

グループ1、2の音程をずらすことができます。半音単位(100セント)での設定、ディチューン効果も可能です。

INTERVAL(インターバル)

グループ1の音程に対して、グループ2の音程を半音単位で高くすることができます。

1～12の範囲で設定、1オクターブ上げることもできます。

DETUNE(ディチューン)

グループ1、2の音程をわずかにずらすことができます。-31～+31の範囲で設定、最大50セントのディチューン効果が得られます。

5.KEY SPLIT/OCT SHIFT (DOUBLE)

KEY SPLIT 1:B	OCT SHIFT 1:
5	0
2:C 4	2:-1

ダブルモードのグループ1、2の発音範囲とオクターブシフトの設定をします。

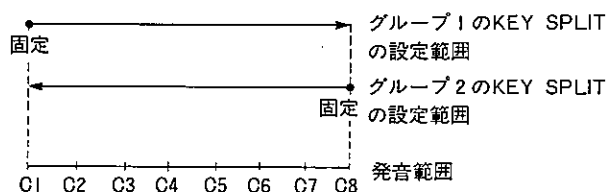
KEY SPLIT 1

グループ1の発音範囲の上限を設定します。範囲の下限はC-1に固定されていますが、上限はC-1～C-8の範囲で可変できます。

KEY SPLIT 2

グループ2の発音範囲の下限を設定します。上限はC-8に固定されていますが、下限はC-1～C-8の範囲で可変できます。

例えば、グループ1の上限をC-8に、グループ2の下限をC-1に設定すると、実際はレイヤーモードと同じ機能することになります。



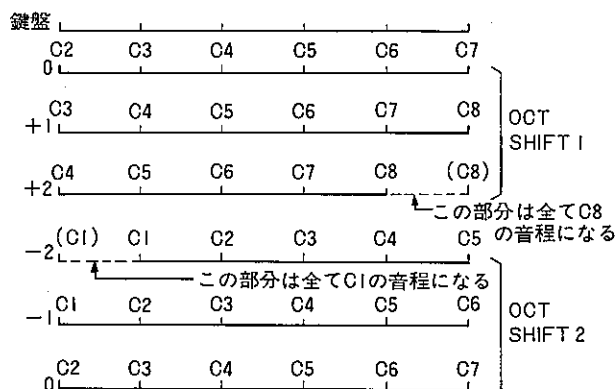
又、グループ2のスプリットの状態をLCD上の表示でおおよその見当をつけることができます。LCD C-10を参照。

OCT SHIFT 1

グループ1の音程をオクターブ単位で上げることができます。0～+2（2オクターブ）の範囲で可変できます。

OCT SHIFT 2

グループ2の音程をオクターブ単位で下げることができます。-2（2オクターブ）～0の範囲で可変できます。



6.NO. OF VOICES (DOUBLE、MULTI)

ダブルモードからこのコンビパラメーターに入った場合、次のようにLCDが表示されます。

NO. OF VOICES	1: 2	2: 6
6		

マルチモードからの場合は、次のように表示されます。

NO. OF VOICES	1: 8	2: 0	3: 0	4: 0
6	5: 0	6: 0	7: 0	8: 0

ダブルモードの場合

グループ1、2の発音数を合計8音までの範囲で割り当てることができます。

マルチモードの場合

グループ1～8に対して合計8音までの発音数を割り当てます。例えば、グループ1に3音、グループ2に4音、グループ3に1音と割り当てた場合、残りのグループ4～8には発音数を割り当てられません。グループ1～3のみが出力されることになります。

7.RECEIVE CHANNEL (MULTI)

RECEIVE CH.	1: 1	2: 1	3: 2	4: 2
7	5: 2	6: 3	7: 4	8: 4

マルチモードの各グループのMIDI受信チャンネルを設定します。外部シーケンサーなどからのMIDIコントロール時に有効です。

ここで設定したMIDIチャンネルとファンクションモードで設定されているMIDIチャンネル（ベーシックチャンネル）が同じグループのみを鍵盤上で演奏することができます。

RECEIVE CH.	1: 1	2: 1	3: 1	4: 4
7	5: 1	6: 1	7: 1	8: 4

上図のような場合、ベーシックチャンネルが4に設定されている時、グループ4とグループ8をユニゾンで演奏することができます。その他のグループは、ベーシックチャンネルと異なるので、鍵盤上で演奏することはできません。

8.PAN (LAYER、DOUBLE、MULTI)

レイヤー、ダブルモードからこのコンビパラメーターに入った場合は、次の様にLCDが表示されます。

PAN	1: A	2: B
8		

マルチモードからの場合は、次の様に表示されます。

PAN	1: A+B	2: A	3: A	4: B
8	5: A	6: A	7: A	8: B

各グループの出力をDS-8のOUTPUT A、Bいずれかに割り当てることができます。A、B、またはAB両方に出力の3種類から選択します。

ファンクションパラメーターモード

DS-8のMIDIデータやフットコントロールに関する機能を設定するモードです。ここで設定されたパラメーター値は、エディットされるとすぐに本体にメモリーされます。

●ファンクションパラメーターのエディットについて

1-ファンクションキーを押します。

次の様にLCDが表示されます。

MASTER TUNE		
0 b		#

2-ナンバーセレクトキーを使ってパラメーターナンバー(0~9)を指定します。

3-カーソルキーを使って変更したいパラメーターにカーソルを移動させます。

4-バリュースライダー、UP/YESキー、DOWN/NOキーを使って数値や様々な機能を設定します。

0. MASTER TUNE

MASTER TUNE		
0 b	← →	#

DS-8のマスターチューンを設定します。-50~+50セント(半音の $\frac{1}{2}$)の範囲で可変できます。センターでA=440Hzになります。

1. TRANSPOSE

TRANSPOSE		
1 CENTER C = C	- +	

DS-8のピッチを-1~+1オクターブの範囲を半音きざみで可変することができます。

2. FOOT SW ASSIGN

FOOT SW ASSIGN	
2	PROG DOWN

アサインブルスイッチの機能を次の中から選択します。

PROG DOWN
OSC SELECT
VELOCITY
MULTI EFFECT
AFTER TOUCH
PORTAMENTO

3. PEDAL ASSIGN

PEDAL ASSIGN	
3	VOLUME

アサインブルペダルの機能を次の中から選択します。

VOLUME
TIMBRE
PITCH MG
TIMBRE MG

4. MEMORY PROTECT

MEMORY PROTECT	INT	EXT
4	OFF	ON

メモリープロテクトの設定をします。INTは本体の、EXTはRAMカードのメモリーに対応します。プログラム及びコンビネーションプログラムをライトする場合はOFFにしてください。通常はONにしておくことでメモリーを誤って消さないように保護することができます。

5. SAVE TO RAM CARD

本体の100プログラムと10コンビネーションプログラム全てを一度にRAMカードにセーブすることができます。一度セーブした後は、いつでもDS-8本体に呼び出すことが可能です。カードは、MCR-01(1バンクメモリー)、MCR-02(2バンクメモリー)、MCR-03(4バンクメモリー)の3種類が用意されています。1バンクに100プログラムと10コンビネーションプログラムをストックすることができます。カードスロットに挿入されたカードの種類によってLCDの表示が次の様に異なります。

MCR-01

SAVE TO RAM CARD
5 SELECT BANK 1

MCR-02

SAVE TO RAM CARD
5 SELECT BANK 1 2

MCR-03

SAVE TO RAM CARD
5 SELECT BANK 1 2 3 4

バンク1にセーブしたプログラム、コンビネーションプログラムはエクスターナルメモリーとして本体に呼び出すことが可能ですが、バンク2、3、4からの呼び出しはできません。バンク2、3、4にはバンク単位(100プログラムと10コンビネーションプログラム)のセーブ、ロードのみが可能です。又、本体のメモリーデータをバンクにセーブすると、前に入っていたデータは消えてしまいますのでご注意ください。大切なデータの入ったRAMカードはメモリープロテクトをかけておきましょう。

LCDが先のように表示された後、カーソルキーでセーブしたいバンクを指定します。UP/YESキーを押すとLCDが次の様に変化します。

SAVE TO RAM CARD
5 ARE YOU SURE ?

「UP/YES」キーを再度押すとセーブを開始し、終了するとLCDが次のような表示になります。

```
SAVE TO RAM CARD
5      SAVE COMPLETED
```

また、ここでは購入したばかりのRAMカードのフォーマットを行うことができます。フォーマットされていないRAMカードを挿入した後にファンクションパラメーター5 SAVE TO RAM CARD を選択すると自動的にフォーマットの動作になります。

```
RAM CARD FORMATING
      DO YOU NEED FORMAT ?
```

LCDが上図のように表示された後UP/YESキーを押すとLCDが次の様に変化します。

```
RAM CARD FORMATING
      ARE YOU SURE ?
```

UP/YESキーを押すとフォーマットを開始します。フォーマットが終了するとLCDが次のように表示されます。

```
RAM CARD FORMATING
      FORMAT COMPLETED
```

また、フォーマット時にRAMカードの全てのバンクには本体のメモリーの内容が書き込まれています。

6. LOAD FROM CARD

メモリーカードMCR-01、MCR-02、MCR-03、又は、ROMカードからのメモリーデーターをDS-8本体にロードすることができます。カードの種類によってLCDの表示が次の様に異なります。

MCR-01

```
LORD FROM CARD
6      SELECT BANK  1
```

MCR-02

```
LORD FROM CARD
6      SELECT BANK  1 2
```

MCR-03

```
LORD FROM CARD
6      SELECT BANK  1 2 3 4
```

カードからのメモリーデータのロードは常にバンク単位(100プログラムと10コンビネーション)のみが可能です。

プログラムやコンビネーションプログラムを1つだけDS-8本体に呼び出したい場合は、前述のプログラムの呼び出し、コンビネーションプログラムの呼び出しの項を参照して下さい。また、カードからのメモリーデータを本体にロードすると、本体のメモリー(インターナルプログラム、コンビネーションプログラム)は全て消えてしまいますのでご注意下さい。LCDが上図のように表示された後、ロードしたいバンクを指定します。UP/YESキーを押すとLCDが次のように変化します。

```
LOAD FROM CARD
6      ARE YOU SURE ?
```

UP/YESキーを押すとロードを開始します。ロードが終了するとLCDが次のように表示されます。

```
LOAD FROM CARD
6      LOAD COMPLETED
```

※メモリーカードのセーブ/ロードに関するエラーメッセージについて

メモリーカードによるセーブ/ロード中に誤ったカードを使用したり、DS-8本体の設定状態がまちがっていたりすると、次の様なエラーメッセージがLCDに表示されます。エラーの個所を確認してから再度作業をやり直して下さい。

LCDの表示	エラーの状態	再度作業のやり方
NO CARD INSERTED	カードがカードスロットに差されていません。	→ カードをしっかりと挿入して下さい。
MEMORY PROTECTED	DS-8本体のメモリーがプロテクトされています。	→ ファンクションモード4 MEMORY PROTECTのEXT(エクスターナル)をOFFにして下さい。
WRITE IMPOSSIBLE	RAMカードのプロテクトスイッチがONになっています。	→ RAMカードのPROTECTスイッチをOFFにします。
ROM/PROTECTED	ROMカードにメモリーしようとしています。	→ RAMカードを使用して下さい。
RAM CARD	RAMカードにデータがなかったり、誤ったデータが記録されている場合	→ DS-8でセーブしたRAMカード、又は専用のROMカードを使用して下さい。
NO DATA IN CARD	RAMカードのバックアップ用電池がなくなっています。	→ RAMカードのバックアップ電池を交換して下さい。
RAM CARD BATTERY LOW		

7. MIDI (CH/OMNI/LOCAL)

MIDI	CHANNEL	OMNI	LOCAL
7	1	OFF	ON

DS-8本体のMIDI送受信チャンネルを設定します。

CHANNEL(チャンネル)

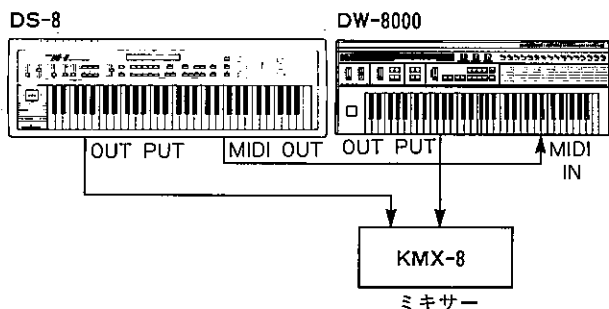
ベーシックチャンネル(1~16)の設定をします。
送受信チャンネルとも同時に設定できます。

OMNI(オムニ)

MIDIオムニモードのON/OFFを設定します。ONにすると外部MIDIチャンネル1~16を全て受信することができます。OFFにすると、CHANNELで設定したベーシックチャンネルのみを受信します。

LOCAL(ローカル)

MIDIローカルモードのON/OFFを設定します。通常はONにしておきます。OFFにするとDS-8の鍵盤、コントローラ部と音源モジュール部が切り離されます。例えば、DS-8を親にしてDW-8000などのMIDIシンセサイザーをコントロールしたい場合に、DS-8の音を出したくない時は、LOCALをOFFにしておきます。



(LOCALをOFFに設定。DS-8のキーボードでDW-8000)をコントロール。DS-8は出力されない。

8. MIDI (FILTERING/EXCLUSIVE)

MIDI	ACT	PROG	CNTRL	EXCLUSIVE
8	ON	ON	ON	OFF

MIDIメッセージの送受信を選択することができます。

ACT(アクティブセンシング)

受信しているMIDI信号を300msごとにチェックする機能をアクティブセンシングと呼びます。通常ON時に送受信を行ないます。

PROG(プログラムチェンジ)

DS-8は、MIDIによるプログラムチェンジが可能です。ONにすると外部からのMIDI信号でDS-8のプログラムチェンジを行ったり、またDS-8で他のMIDI機器のプログラムをコントロールすることができます。OFFにすると、この機能が働かなくなります。

CNTRL(コントロールチェンジ)

MIDIによるコントロールチェンジ(ピッチベンド、アフタータッチ、モジュレーションなど)のメッセージを送受信することができます。ONで送受信が可能に、OFFにすると機能しません。

EXCLUSIVE(エクスクルーシブ)

MIDIシステムエクスクルーシブデータを送受信することができます。9. MIDI DATA TRANSFERでデータのダンプを行う時はONにしてください。またONの時にプログラムモードでプログラムを呼び出すと、DS-8のMIDI-OUT端子からプログラムチェンジのデータを送信するかわりに音色のデータダンプを送信します。DS-8で他のMIDI機器のプログラムチェンジを行う時は、EXCLUSIVEをOFFにしておきます。

9. MIDI DATA TRANSFER

DATA TRANSFER

9 ARE YOU SURE ?

内部の100音色プログラムデータトランスファー(もう一台のDS-8にプログラムデータをMIDIで転送するなど)を行うことができます。データトランスファーを行う時は、転送を行うDS-8双方のEXCLUSIVEをONにしておきます。

(8. MIDI EXCLUSIVE参照)

UP/YESキーを押すとデータトランスファーを開始します。EXCLUSIVEがOFFになっていると、次のようにLCDが表示されます。

DATA TRANSFER

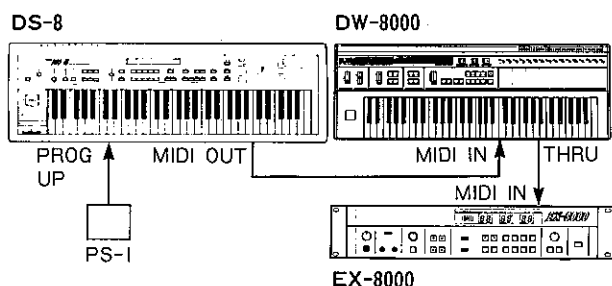
9 MIDI EXCLUSIVE OFF !

EXCLUSIVEをONにして、再度作業をやり直して下さい。

注) ファンクションモードには、どのモードからでも入ることができますが、ファンクションモードから抜ける場合には、最後に選択したモードにしか戻れません。例えば、プログラムモードからファンクションモードに入った場合には、プログラムモードにのみ戻ることができます。この場合、再度ファンクションキーを押すか、プログラムキーを押すことによりファンクションモードから抜けることができます。

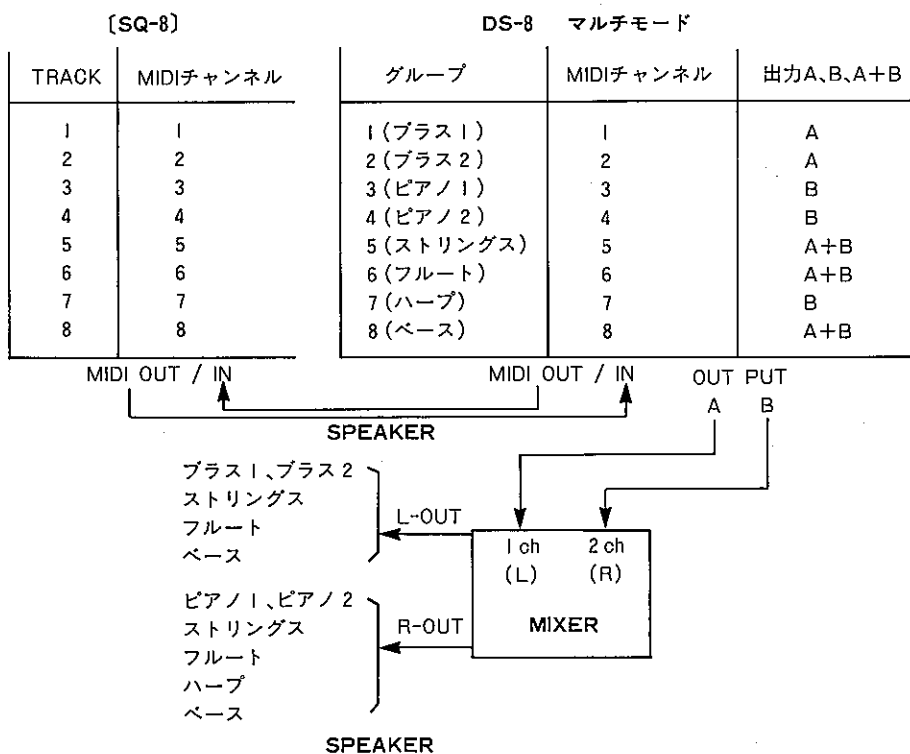
MIDI

- DS-8で他のMIDIシンセサイザー (DW-8000など) やMIDI音源ユニット (EX-8000など) をコントロール。



DS-8、DW-8000、EX-8000のMIDIチャンネルを送受信チャンネルとも全て、同じチャンネルに設定する。

- DS-8とSQ-8 (マルチトラックシーケンサー)



1. DS-8とSQ-8のMIDI IN、MIDI OUTをMIDIケーブルで接続します。
2. DS-8のコンビネーションプログラム (マルチモード) を呼び出します。
3. SQ-8のトラック 1とDS-8のグループ 1のMIDIチャンネル、ベーシックチャンネルを1チャンネルに設定します。
4. SQ-8のレコーディングを開始します。
5. トラック 1のレコーディングが終了したら、トラック 2に移ります。同じようにトラック 2とグループ 2のMIDIチャンネル、ベーシックチャンネルのチャンネルを2に設定します。

- MIDIリセット機能

MIDIを使用中、思わぬ原因で音が出なかったり、または出たままになったりピッチベンドやモジュレーションがかかったままになることがあります。その場合には、パネル上のコンペアーキーを押すことによりその状態をリセットすることができます。

1. DS-8のMIDI OUTと他のシンセサイザーのMIDI INをMIDIケーブルで接続します。
 2. 接続したMIDIシンセサイザーの受信チャンネルとDS-8の送信チャンネルを同じチャンネルにセットします。MIDIチャンネルの設定はファンクションモードのパラメーター7. MIDIを使って行います。
- DS-8のプログラムチェンジで他のMIDIシンセサイザーのプログラムをコントロールしたり、ピッチベンドやアフタータッチ機能进行操作することができます。コントロールされる側にこれらのMIDIメッセージを受信する機能がある場合に限りです。

6. トラック 3～8も同様に、各トラックと、各グループのMIDIチャンネル、ベーシックチャンネルを同じチャンネルに設定してレコーディングします。
7. 8グループ別々に、8トラックのレコーディングが完了しました。SQ-8をプレイします。

コンビネーションプログラムの出力A、Bをグループごとに設定して、各楽器パートのステレオ定位を決定することができます。(コンビパラメーター8. PAN参照)

MIDI Implementation

1. TRANSMITTED DATA

1-1 CHANNEL MESSAGES

STATUS	SECOND	THIRD	DESCRIPTION	ENA
1 0 0 0 n n n n	0 k k k k k k k k	0 1 0 0 0 0 0 0	Note Off k k k k k k k = 24~108 (61key+Transpose)	A
1 0 0 1 n n n n	0 k k k k k k k k	0 v v v v v v v v	Note On k k k k k k k = 24~108 (61key+Transpose) v v v v v v v = 16~127	A
1 0 1 1 n n n n	0 0 0 0 0 0 0 1	0 v v v v v v v v	Pitch Modulation (Joy Stick (+Y)) v v v v v v v = 00~127	C
1 0 1 1 n n n n	0 0 0 0 0 0 1 0	0 v v v v v v v v	Timbre Modulation (Joy Stick (-Y)) v v v v v v v = 00~127	C
1 0 1 1 n n n n	0 0 0 0 0 1 1 0	0 v v v v v v v v	Data Entry v v v v v v v = 00~127	E
1 0 1 1 n n n n	0 0 0 0 0 1 1 1	0 v v v v v v v v	Volume (Volume Pedal) v v v v v v v = 00~127	C
1 0 1 1 n n n n	0 1 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0	Damper Off (Damper Pedal)	C
1 0 1 1 n n n n	0 1 0 0 0 0 0 0	0 1 1 1 1 1 1 1	Damper On (Damper Pedal)	C
1 0 1 1 n n n n	0 1 0 0 0 0 0 1	0 0 0 0 0 0 0 0	Portamento Off	C
1 0 1 1 n n n n	0 1 0 0 0 0 0 1	0 1 1 1 1 1 1 1	Portamento On	C
1 0 1 1 n n n n	0 1 1 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0	Data increment	E
1 0 1 1 n n n n	0 1 1 0 0 0 0 1	0 0 0 0 0 0 0 0	Data Decrement	E
1 1 0 0 n n n n	0 p p p p p p p p		Program Change p p p p p p p = 00~99	P
1 0 1 1 n n n n	0 v v v v v v v v		Channel Pressure (After Touch) v v v v v v v = 00~127	C
1 1 0 0 n n n n	0 0 0 0 0 0 0 0	0 b b b b b b b b	Bender Cange (Joy Stick (X)) 注1 b b b b b b b = 00~64~127	C
1 1 1 0 n n n n	0 1 1 1 1 1 1 1	0 1 1 1 1 1 1 1	Bender Cange (Max) (J.S (X)) 注1	C

備考 n n n n : MIDI Channel Number (0~15)

ENA : Trans Enable Mode

A=Always Enable

C=Control On Mode

P=P.Change On Mode

E=Exclusive On Mode

注1：普通は上位8bitが変化するのみで、下位8bitは00に固定される。しかしDATAが最大のときは下位8bitが127になる。

(128段階)

0000H. → 4000H → 7F7FH

(Min) (Center) (Max)

1-2 SYSTEM REAL TIME MESSAGES

STATUS	DESCRIPTION
1 1 1 1 1 1 1 0	Active Sensing

※ACT On時にTrans Enable

1-3 SYSTEM EXCLUSIVE MESSAGES

(1) DEVICE ID

BYTE	DESCRIPTION
1 1 1 1 0 0 0 0	Exclusive Status
0 1 0 0 0 0 1 0	KORG ID 42H
0 0 1 1 n n n n	Format ID 3nH (n=ch)
0 0 0 1 0 0 1 1	DS-8 ID 13H
1 1 1 1 0 1 1 1	EOX

(2) 1 VOICE DUMP

BYTE	DESCRIPTION
1 1 1 1 0 0 0 0	Exclusive Status
0 1 0 0 0 0 1 0	KORG ID 42H
0 0 1 1 n n n n	Format ID 3nH (n=ch)
0 0 0 1 0 0 1 1	DS-8 ID 13H
0 1 0 0 0 0 0 0	1 Voice Dump 40H
0 d d d d d d d d	
:	
0 d d d d d d d d	1 Voice Data (80 bytes)
1 1 1 1 0 1 1 1	EOX

(3) ALL VOICE DUMP

BYTE	DESCRIPTION
1 1 1 1 0 0 0 0	Exclusive Status
0 1 0 0 0 0 1 0	KORG ID 42H
0 0 1 1 n n n n	Format ID 3nH (n=ch)
0 0 0 1 0 0 1 1	DS-8 ID 13H
0 1 0 0 1 1 0 0	All Voice Dump 40H
0 d d d d d d d d	
:	
0 d d d d d d d d	All Voice Data (7544 bytes)
1 1 1 1 0 1 1 1	EOX

(4) 1 COMBI DUMP

BYTE	DESCRIPTION
1 1 1 1 0 0 0 0	Exclusive Status
0 1 0 0 0 0 1 0	KORG ID 42H
0 0 1 1 n n n n	Format ID 3nH (n=ch)
0 0 0 1 0 0 1 1	DS-8 ID 13H
0 1 0 0 1 0 0 1	1 Combi Dump 49H
0 d d d d d d d d	
:	
0 d d d d d d d d	1 Combi Data (56 bytes)
1 1 1 1 0 1 1 1	EOX

(5) ALL COMBI DUMP

BYTE	DESCRIPTION
1 1 1 1 0 0 0 0	Exclusive Status
0 1 0 0 0 0 1 0	KORG ID 42H
0 0 1 1 n n n n	Format ID 3nH (n=ch)
0 0 0 1 0 0 1 1	DS-8 ID 13H
0 1 0 0 1 1 0 1	All Combi Dump 4DH
0 d d d d d d d d	
:	
0 d d d d d d d d	All Combi Dump (4344 bytes)
1 1 1 1 0 1 1 1	EOX

(6) PANEL MODE

BYTE	DESCRIPTION
1 1 1 1 0 0 0 0	Exclusive Status
0 1 0 0 0 0 1 0	KORG ID 42H
0 0 1 1 n n n n	Format ID 3nH (n=ch)
0 0 0 1 0 0 1 1	DS-8 ID 13H
0 1 0 0 0 0 1 0	Panel Mode 42H
0 0 0 0 0 d d d	Panel Mode Data d d d=0 0 0 : Program
1 1 1 1 0 1 1 1	EOX 0 0 1 : Voice Parm 0 1 0 : Combi Parm 0 1 1 : Function 1 0 0 : Combi

(7) PANEL MODE CHANGE

BYTE	DESCRIPTION
1 1 1 1 0 0 0 0	Exclusive Status
0 1 0 0 0 0 1 0	KORG ID 42H
0 0 1 1 n n n n	Format ID 3nH (n=ch)
0 0 0 1 0 0 1 1	DS-8 ID 13H
0 1 0 0 1 1 1 0	Panel Mode Change 4EH
0 0 0 0 0 d d d	Panel Mode Data d d d=0 0 0 : Program
1 1 1 1 0 1 1 1	EOX 0 0 1 : Voice Parm 0 1 0 : Combi Parm 0 1 1 : Function 1 0 0 : Combi

(8) KEYBOARD MODE

BYTE	DESCRIPTION
1 1 1 1 0 0 0 0	Exclusive Status
0 1 0 0 0 0 1 0	KORG ID 42H
0 0 1 1 n n n n	Format ID 3nH (n=ch)
0 0 0 1 0 0 1 1	DS-8 ID 13H
0 1 0 0 1 0 1 1	Keyboard Mode 4BH
0 0 0 0 0 d d d	Keyboard Mode Data d d=0 0 : Single
1 1 1 1 0 1 1 1	EOX 0 1 : Layer 1 0 : Double 1 1 : Multi

(9) KEYBOARD MODE CHANGE

BYTE	DESCRIPTION
1 1 1 1 0 0 0 0	Exclusive Status
0 1 0 0 0 0 1 0	KORG ID 42H
0 0 1 1 n n n n	Format ID 3nH (n=ch)
0 0 0 1 0 0 1 1	DS-8 ID 13H
0 1 0 0 1 0 1 0	Keyboard Mode Change 4AH
0 0 0 0 0 d d d	Keyboard Mode Data d d=0 0 : Single
1 1 1 1 0 1 1 1	EOX 0 1 : Layer 1 0 : Double 1 1 : Multi

(10) PARAMETER CHANGE

BYTE	DESCRIPTION
1 1 1 1 0 0 0 0	Exclusive Status
0 1 0 0 0 0 1 0	KORG ID 42H
0 0 1 1 n n n n	Format ID 3nH (n=ch)
0 0 0 1 0 0 1 1	DS-8 ID 13H
0 1 0 0 0 0 1 0	Parameter Change 41H
0 d d d d d d d	Parameter No.
0 d d d d d d d	Parameter Value LSB
0 0 0 0 0 0 0 d	Parameter Value MSB
1 1 1 1 0 1 1 1	EOX

(1) DATA LOAD COMPLETED

BYTE	DESCRIPTION
1 1 1 1 0 0 0 0	Exclusive Status
0 1 0 0 0 0 1 0	KORG ID 42H
0 0 1 1 n n n n	Format ID 3nH (n=ch)
0 0 0 1 0 0 1 1	DS-8 ID 13H
0 0 1 0 0 0 1 1	Data Load Completed 23H
1 1 1 1 0 1 1 1	EOX

(2) DATA LOAD ERROR

BYTE	DESCRIPTION
1 1 1 1 0 0 0 0	Exclusive Status
0 1 0 0 0 0 1 0	KORG ID 42H
0 0 1 1 n n n n	Format ID 3nH (n=ch)
0 0 0 1 0 0 1 1	DS-8 ID 13H
0 0 1 0 0 1 0 0	Data Load Error 24H
1 1 1 1 0 1 1 1	EOX

(3) WRITE COMPLETED

BYTE	DESCRIPTION
1 1 1 1 0 0 0 0	Exclusive Status
0 1 0 0 0 0 1 0	KORG ID 42H
0 0 1 1 n n n n	Format ID 3nH (n=ch)
0 0 0 1 0 0 1 1	DS-8 ID 13H
0 0 1 0 0 0 0 1	Write Completed 21H
1 1 1 1 0 1 1 1	EOX

(4) WRITE ERROR

BYTE	DESCRIPTION
1 1 1 1 0 0 0 0	Exclusive Status
0 1 0 0 0 0 1 0	KORG ID 42H
0 0 1 1 n n n n	Format ID 3nH (n=ch)
0 0 0 1 0 0 1 1	DS-8 ID 13H
0 0 1 0 0 0 1 0	Write Error 22H
1 1 1 1 0 1 1 1	EOX

※Exclusive On時に Trans Enable

2. RECOGNIZED RECEIVE DATA

2-1 CHANNEL MESSAGES

STATUS	SECOND	THIRD	DESCRIPTION	ENA
1000 nnnn	0kkk kkkk	0xxx xxxx	Note Off 注2	A
1001 nnnn	0kkk kkkk	0000 0000	Note Off 注2	A
1001 nnnn	0kkk kkkk	0vvv vvvv	Note On 注2 vvvvvvvv=1~127	A
1011 nnnn	0000 0001	0vvv vvvv	Pitch Modulation	C
1011 nnnn	0000 0010	0vvv vvvv	Timbre Modulation	C
1011 nnnn	0000 0110	0vvv vvvv	Data Entry vvvvvvv=00~127	E
1011 nnnn	0000 0111	0vvv vvvv	Volume	C
1011 nnnn	0000 1010	000x xxxx	Panpot (A)	C
1011 nnnn	0000 1010	001x xxxx	Panpot (A+B)	C
1011 nnnn	0000 1010	010x xxxx	Panpot (A+B)	C
1011 nnnn	0000 1010	011x xxxx	Panpot (B)	C
1011 nnnn	0100 0000	0000 0000	Damper Off	C
1011 nnnn	0100 0000	0111 1111	Damper On	C
1011 nnnn	0100 0001	0000 0000	Portamento Off	C
1011 nnnn	0100 0001	0111 1111	Portamento On	C
1011 nnnn	0110 0000	0000 0000	Data Increment	E
1011 nnnn	0110 0001	0000 0000	Data Decrement	E
1011 nnnn	0111 1010	0000 0000	Local Off	A
1011 nnnn	0111 1010	0111 1111	Local On	A
1011 nnnn	0111 1011	0000 0000	All Notes Off	A
1011 nnnn	0111 1100	0000 0000	OMNI Off (A.N. Off)	A
1011 nnnn	0111 1101	0000 0000	OMNI On (A.N. Off)	A
1011 nnnn	0111 1110	0xxx xxxx	(All Notes Off)	A
1011 nnnn	0111 1111	0000 0000	(All Notes Off)	A
1100 nnnn	0ppp pppp		Program Change 注3	P
1101 nnnn	0vvv vvvv		After Touch	C
1110 nnnn	0xxx xxxx	0bbb bbbb	Bender Change	C

備考 n n n n : MIDI Channel Number (0~15)

x x x x : Don't Care

ENA : Receive Enable Mode

A=Always Enable

C=Control On Mode

P=P. Change On Mode

E=Exclusive On Mode

注2 : ノートNo.24~108のDATAはそのまま受けとるが、範囲外のDATA(0~23、109~127)は範囲内にはいるまで、オクターブ単位でシフトする。

ex. 23→35、124→100

注3 : パネル上でプログラムモードが選ばれている場合は、プログラム00~99の範囲で、コンビネーションプログラムが選ばれている場合はコンビネーションプログラム0~9の範囲で可変する。

プログラムモードで100以上のデータを受信した場合は、そこから100を引いた値を用いる。

ex. 100→00、127→27

同様にコンビネーションプログラムモードで、10以上のデータを受信した場合には1桁目のみを有効とする。

ex. 10→0、127→7

2-2 SYSTEM REAL TIME MESSAGE

STATUS	DESCRIPTION
1111 1110	Active Sensing

※ACT On時に Receive Enable

2-3 SYSTEM EXCLUSIVE MESSAGES

(1) DEVICE ID REQUEST

BYTE	DESCRIPTION
1111 0000	Exclusive Status
0100 0010	KORG ID 42H
0100 nnnn	Format ID 4nH (n=ch)
1111 0111	EOX

(2) 1 VOICE DUMP REQUEST

BYTE	DESCRIPTION
1111 0000	Exclusive Status
0100 0010	KORG ID 42H
0011 nnnn	Format ID 3nH (n=ch)
0001 0011	DS-8 ID 13H
0001 0000	1 Voice Dump Request 10H
1111 0111	EOX

(3) 1 VOICE DUMP

BYTE	DESCRIPTION
1111 0000	Exclusive Status
0100 0010	KORG ID 42H
0011 nnnn	Format ID 3nH (n=ch)
0001 0011	DS-8 ID 13H
0100 0000	1 Voice Dump 40H
0 d d d d d d d d	
:	
0 d d d d d d d d	1 Voice Data (80 bytes)
1111 0111	EOX

(4) ALL VOICE DUMP REQUEST

BYTE	DESCRIPTION
1111 0000	Exclusive Status
0100 0010	KORG ID 42H
0011 nnnn	Format ID 3nH (n=ch)
0001 0011	DS-8 ID 13H
0001 1100	All Voice Dump Request 1CH
1111 0111	EOX

(5) ALL VOICE DUMP

BYTE	DESCRIPTION
1111 0000	Exclusive Status
0100 0010	KORG ID 42H
0011 nnnn	Format ID 3nH (n=ch)
0001 0011	DS-8 ID 13H
0100 1100	All Voice Dump 4CH
0 d d d d d d d d	
:	
0 d d d d d d d d	All Voice Data (7544 bytes)
1111 0111	EOX

(6) 1 COMBI DUMP REQUEST

BYTE	DESCRIPTION
1111 0000	Exclusive Status
0100 0010	KORG ID 42H
0011 nnnn	Format ID 3nH (n=ch)
0001 0011	DS-8 ID 13H
0001 1001	1 Combi Dump Request 19H
1111 0111	EOX

(7) 1 COMBI DUMP

BYTE	DESCRIPTION
1111 0000	Exclusive Status
0100 0010	KORG ID 42H
0011 nnnn	Format ID 3nH (n=ch)
0001 0011	DS-8 ID 13H
0100 1001	1 Combi Dump 49H
0 d d d d d d d d	
:	
0 d d d d d d d d	1 Combi Data (56 bytes)
1111 0111	EOX

(8) ALL COMBI DUMP REQUEST

BYTE	DESCRIPTION
1111 0000	Exclusive Status
0100 0010	KORG ID 42H
0011 nnnn	Format ID 3nH (n=ch)
0001 0011	DS-8 ID 13H
0001 1101	All Combi Dump Request 1DH
1111 0111	EOX

(9) ALL COMBI DUMP

BYTE	DESCRIPTION
1111 0000	Exclusive Status
0100 0010	KORG ID 42H
0011 nnnn	Format ID 3nH (n=ch)
0001 0011	DS-8 ID 13H
0100 1101	All Combi Dump 4DH
0 d d d d d d d d	
:	
0 d d d d d d d d	All Combi Dump (4344 bytes)
1111 0111	EOX

(10) PANEL MODE REQUEST

BYTE	DESCRIPTION
1111 0000	Exclusive Status
0100 0010	KORG ID 42H
0011 nnnn	Format ID 3nH (n=ch)
0001 0011	DS-8 ID 13H
0001 0010	Panel Mode Request 12H
1111 0000	EOX

(11) PANEL MODE CHANGE

BYTE	DESCRIPTION
1 1 1 1 0 0 0 0	Exclusive Status
0 1 0 0 0 0 1 0	KORG ID 42H
0 0 1 1 n n n n	Format ID 3nH (n=ch)
0 0 0 1 0 0 1 1	DS-8 ID 13H
0 1 0 0 1 1 1 0	Panel Mode Change 4EH
0 0 0 0 0 d d d	Panel Mode Data d d d = 0 0 0 : Program
1 1 1 1 0 1 1 1	EOX 0 0 1 : Voice Parm 0 1 0 : Combi Parm 0 1 1 : Function 1 0 0 : Combi

(12) KEY BOARD MODE REQUEST

BYTE	DESCRIPTION
1 1 1 1 0 0 0 0	Exclusive Status
0 1 0 0 0 0 1 0	KORG ID 42H
0 0 1 1 n n n n	Format ID 3nH (n=ch)
0 0 0 1 0 0 1 1	DS-8 ID 13H
0 0 0 1 1 0 1 1	Keyboard Mode Request 1BH
1 1 1 1 0 1 1 1	EOX

(13) KEY BOARD MODE CHANGE

BYTE	DESCRIPTION
1 1 1 1 0 0 0 0	Exclusive Status
0 1 0 0 0 0 1 0	KORG ID 42H
0 0 1 1 n n n n	Format ID 3nH (n=ch)
0 0 0 1 0 0 1 1	DS-8 ID 13H
0 1 0 0 1 0 1 0	Keyboard Mode Change 4AH
0 0 0 0 0 0 d d	Keyboard Mode Data d d = 0 0 : Single
1 1 1 1 0 1 1 1	EOX 0 1 : Layer 1 0 : Double 1 1 : Multi

(14) PARAMETER CHANGE

BYTE	DESCRIPTION
1 1 1 1 0 0 0 0	Exclusive Status
0 1 0 0 0 0 1 0	KORG ID 42H
0 0 1 1 n n n n	Format ID 3nH (n=ch)
0 0 0 1 0 0 1 1	DS-8 ID 13H
0 1 0 0 0 0 1 0	Parameter Change 41H
0 d d d d d d d	Parameter No.
0 d d d d d d d	Parameter Value LSB
0 0 0 0 0 0 d d	// MSB
1 1 1 1 0 1 1 1	EOX

(15) VOICE WRITE REQUEST

BYTE	DESCRIPTION
1 1 1 1 0 0 0 0	Exclusive Status
0 1 0 0 0 0 1 0	KORG ID 42H
0 0 1 1 n n n n	Format ID 3nH (n=ch)
0 0 0 1 0 0 1 1	DS-8 ID 13H
0 0 0 1 0 0 0 1	Voice Write Request 11H
0 d d d d d d d	Program No. 00~63H
1 1 1 1 0 1 1 1	EOX

(16) COMBI WRITE REQUEST

BYTE	DESCRIPTION
1 1 1 1 0 0 0 0	Exclusive Status
0 1 0 0 0 0 1 0	KORG ID 42H
0 0 1 1 n n n n	Format ID 3nH (n=ch)
0 0 0 1 1 0 1 1	DS-8 ID 13H
0 0 0 1 1 0 1 0	Combi Write Request 1AH
0 d d d d d d d	Combi Program No. 00~09H
1 1 1 1 0 1 1 1	EOX

※Exclusive On時に Receive Enable

[8 VOICE POLYPHONIC SYNTHESIZER]

Model DS-8 MIDIインプリメンテーションチャート Version: 1.0

ファンクション・・・			送信	受信	備考
ベーシックチャンネル	電源ON時 設定可能		1 - 16 1 - 16	1 - 16 1 - 16	記憶される
モード	電源ON時 メッセージ 代用		1 X *****	1 #4=ON/OFF	無視される
ノート ナンバー:	音域		24 - 108 *****	0 - 127 24 - 108	
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ		○ 9n.V=1-127 X	○ 9n.V=1-127	#1
アフター タッチ	キー別 チャンネル別		X ○	X ○	#1
ピッチ・ベンダー			○	○	
コントロール	1		○	○	ピッチモジュレーション #1
	2		○	○	ティンハーモジュレーション #1
	6		○	○	デモタイントリー #3
	7		○	○	おリウム #1
	10		X	○	ハノンポット #1
チェンジ	64		○	○	タンハーモタール #1
	65		○	○	ホルタメントスイッチ #1
	96		○	○	デモタインクリメント #3
	97		○	○	デモタデクリメント #3
プログラム チェンジ:	設定可能範囲		0 - 99 *****	0 - 99 0 - 127	#2 100以上のデータは 100を引いた値を用いる。
エクスクルーシブ			○	○	音色データダンプなど #3
コモン	: ソング・ポジション		X	X	
	: ソング・セレクト		X	X	
	: チューン		X	X	
リアル タイム	: クロック : コマンド		X X	X X	
その他	: ローカルON/OFF		X	○	
	: オール・ノート・オフ		X	○ 123 - 127	
	: アクティブ・センシング		○	○	#4
	: リセット		X	X	
備考			#1 ファンクションで CNTROL=ON のとき送受信する #2 ファンクションで PROG=ON のとき送受信する #3 ファンクションで EXCLUSIVE=ON のとき送受信する #4 ファンクションで ACT=ON のとき送受信する		
モード1: オムニ・オン, ポリ			モード2: オムニ・オン, モノ		
モード3: オムニ・オフ, ポリ			モード4: オムニ・オフ, モノ		
			○: あり X: なし		

スペック/オプション

鍵盤数	: C~C61鍵、ペロシティ、アフタータッチ付
同時発音数	: 8 ボイス (SINGLE)
プログラムメモリー数	: 本体 音色プログラム 100 コンビネーションプログラム 10 カード(MCR-02使用時) 音色プログラム 200 コンビネーションプログラム 20
ファンクション	: マスターチューン ±50セント トランスポーズ ±1 オクターブ(クロマチック) フット・スイッチアサイン(プログラム・ダウン、OSCセレクト、ペロシティ、マルチエフェクト、アフタータッチ、ポルタメント) ペダル・アサイン (ポリリューム、ティンバー、ピッチMG、ティンバーMG) メモリープロテクト インターナル (OFF/ON) エクスターナル (OFF/ON) セーブ TO RAMカード ロード FROMカード MIDI 送受信チャンネル (1~16) オムニ (OFF/ON) ローカル (OFF/ON) アクティブ・センシング (OFF/ON) プログラム・チェンジ (OFF/ON) コントロール・チェンジ (OFF/ON) エクスクルーシブ (OFF/ON) データ・トランスファー
ボイスパラメーター	: ピッチ OSC 1、OSC 2、ディチューン ピッチEG スタートレベル、アタック、アタックレベル、ディケイ、リリース、リリースレベル OSC 1 WAVE FORM タイプ、スペクトラム、リング、リミッター、キーボードトラック OSC 2 WAVE FORM タイプ、スペクトラム、リング、リミッター、キーボードトラック OSC 1 TIMBRE EG ティンバー、EGインテンシティ、アタック、ディケイ、サステーン、リリース、キーボードトラック OSC 2 TIMBRE EG ティンバー、EGインテンシティ、アタック、ディケイ、サステーン、リリース、キーボードトラック OSC 1 AMPL EG レベル、アタック、ディケイ、サステーン、リリース、キーボードトラック OSC 2 AMPL EG レベル、アタック、ディケイ、サステーン、リリース、キーボードトラック モジュレーション・ジェネレーター 波形 (Λ、Λ、J、S/H)、フリークエンシー、ディレイタイム、ピッチ、ティンバー/アンプ、ティンバーセレクト(OFF、1、2、1+2)、アンプセレクト (OFF、1、2、1+2) ポルタメント モード・タイム ジョイスティック ベンドピッチ (±1オクターブMAX)、ベンドティンバー、モジュレーションスピード ペロシティ OSC 1 ティンバーEG、OSC 2 ティンバーEG、 OSC 1 アンプ EG、OSC 2 アンプ EG

アフタータッチ
 ピッチMG、ティンバー、OSC 1 アンプレベル、OSC 2 アンプレベル
 アサインモード
 ポリ/ユニゾン、トリガー(シングル/マルチ:ユニゾン時のみ)、ディチューン(ユニゾン時のみ)
 ボイスネーム
 10文字
 マルチエフェクト
 モード(マニュアルディレイ、ロングディレイ、ショートディレイ、ダブリング、フランジャー、コーラス)、タイム(約 0.04 ~ 約 850ms)、フィードバック(±100%MAX)、モジュレーションフリケンシー、モジュレーションインテンシティ、エフェクトレベル

コンビネーション

パラメーター : コントローラ
 ソース、グループ 1 ~ 8 (OFF/ON)
 モジュレーション・ジェネレーター
 ソース、グループ 1 ~ 8 (OFF/ON)
 マルチエフェクト
 ソース、モード (ロングディレイ、ショートディレイ、ダブリング、フランジャー、コーラス: ソースがコンビネーションの時のみ)
 マルチエフェクト IN/OUT
 IN(A、B、A+B)、OUT(A、B、A+B)
 インターバル/ディチューン
 インターバル(1オクターブMAX:クロマチック)、ディチューン(50セントMAX)
 キースプリット/オクターブシフト
 キースプリット 1 (C1 ~ C8)、キースプリット 2 (C1 ~ C8)
 オクターブシフト 1 (+2オクターブMAX)、オクターブシフト 2 (-2オクターブMAX)
 音数指定
 グループ 1 ~ 8 (各グループ音数の合計が最大 8)
 レシーブチャンネル
 グループ 1 ~ 8 (チャンネル 1 ~ チャンネル 16)
 PAN
 グループ 1 ~ 8 (A、B、A+B)

パネルモードキー : プログラムキー
 コンビネーションキー
 ファンクションキー
 ボイス・パラメーターキー
 コンビパラメーターキー

キーボードモードキー : シングルモードキー
 レイヤーモードキー
 ダブルモードキー
 マルチモードキー

プログラマー : ナンバーセレクトキー(0 ~ 9)
 カーソルキー(◀、▶)
 ライトキー
 コンベアー
 バリュースライダー
 UP/YESキー
 DOWN/NOキー

パフォーマンスエディター : ティンバー
 EG 1
 EG 2
 OSCセレクト(1、2、1+2)
 ベロシティ (OFF/ON)
 アフタータッチ (OFF/ON)
 ボルタメント (OFF/ON)
 マルチエフェクト (OFF/ON)
 マルチエフェクト・セレクト

ボリューム	: (0 ～MAX)
バランス	: A↔B
表 示 器	: LCDディスプレイ、40×2 (バックライト付き)
カードスロット	: 1
入力端子	: ダンパー、プログラム・アップ、アサイナブル・ペダル、アサイナブル・スイッチ
出力端子	: アウトプット (A/MIX、B)、ホーンズ
MIDI端子	: IN、OUT、THRU
消費電力	: 18W
電 源	: 100V、50/60Hz
重 量	: 10.0kg
外形寸法	: 1,020(W)×317(D)×101(H)mm
付 属 品	: AC電源コード、接続コード
オプション	: (ROMカード、RAMカード(MCR-01、MCR-02、MCR-03)、フットスイッチPS-1、PS-2、ダンパー) スイッチDS-1、フットコントローラーEXP-2

★製品の仕様及び外観などは、改良のため予告なく変更することがあります。

DS-8 VOICE NAME CHART

No.	VOICE NAME	No.	VOICE NAME	No.	VOICE NAME
00	Piano 1	34	Synth Bass 2	68	Syncry 1
01	Piano 2	35	Solo String	69	Syncry 2
02	Piano 3	36	Hi Strings	70	Mr. Mean E
03	Electric Piano 1	37	Low Strings	71	Flutter Bell
04	Electric Piano 2	38	Warm Strings	72	Jingle Keys
05	Electric Piano 3	39	Pizzicato	73	Tiny Guitar
06	Electric Piano 4	40	Trombone	74	East Pond
07	Lead Piano	41	Trumpet	75	Synth Sweep
08	Clav 1	42	French Horn	76	Synth 1
09	Clav 2	43	Brass Ensemble	77	Synth 2
10	Organ 1	44	Synth Brass	78	Synth 3
11	Organ 2	45	Flute	79	Synth 4
12	Organ 3	46	Clarinet	80	Round Keys
13	Organ 4	47	Reed 1	81	Fallen Angel
14	Organ 5	48	Reed 2	82	Scratching
15	Pipe organ 1	49	Sax	83	Lead It Up
16	Pipe organ 2	50	Analog Pad 1	84	Agogo Bell
17	Harpsichord	51	Analog Pad 2	85	Cabasa Nubo
18	Celeste	52	Analog Pad 3	86	Synth Claps
19	Harp	53	Analog Pad 4	87	Whistle
20	Vibes	54	Square Wave Pad 1	88	Hit Me
21	Marimba	55	Square Wave Pad 2	89	Clang Keys
22	Steel Drum	56	Square Wave Pad 3	90	Wind
23	12 String Guitar	57	Square Wave Pad 4	91	Rumble
24	Jazz Guitar 1	58	India	92	Rain
25	Jazz Guitar 2	59	Square Fuzz	93	Water Drops
26	Bells 1	60	Synth Lead 1	94	Birds
27	Bells 2	61	Synth Lead 2	95	Steam + Fry
28	Synth Vocal 1	62	Synth Lead 3	96	'Cycles
29	Synth Vocal 2	63	Synth Lead 4	97	Chopper
30	Slap Bass	64	Synth Lead 5	98	Don't Hold
31	Round Bass	65	E.Piano + Strings	99	Initial
32	Acoustic Bass	66	Bell + Brass		
33	Synth Bass 1	67	Mallet + Pad		

No.	COMBINATIONS	No.	COMBINATIONS	No.	COMBINATIONS
0	(30) Slap Bass + (01) Piano 1 [Double]	3	(18) Celeste + (38) Warm Strings [Layer]	7	Sequencer Combination 3
1	(30) Slap Bass + (10) Organ 1 [Double]	4	(08) Clav 1 + (60) Synth Lead 1 [Double]	8	Sequencer Combination 4
2	(67) Mallet / Pad + (65) Rhodestrings [Layer]	5	Sequencer Combination 1	9	Sequencer Combination 5
		6	Sequencer Combination 2		

アフターサービス

- 製品をお買い上げいただいた日より一年間は保証期間です。万一保証期間内に、製造上の不備による故障が生じた場合は無償修理いたしますので、お買い上げの販売店に保証書を提示して修理をご依頼ください。
- ただし、次の場合の修理は有償修理となります。
 1. 消耗部品(電池など)を交換する場合。
 2. 輸送時の落下、衝撃などお客様の取扱い方法が不適切のために生じた故障。
 3. 天災(火災、浸水等)によって生じた故障。
 4. 故障の原因が本製品以外の他の機器にある場合。
 5. KORG サービスステーション及び、KORG 指定者以外の手により修理、改造された部分の処置が不適当であった場合。
 6. 保証書に販売店名、お客様氏名、ご住所、お買い上げ日などが記入されていない場合。
 7. 保証期間が切れている場合。
 8. 日本国外で使用される場合。

尚、当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても3ヶ月以内に限り無償修理となります。また、仕様変更に関しては有償になります。

- 修理の際の出張料はお買い上げいただいた日より3ヶ月以内に限り無料です。3ヶ月を経過した出張修理の場合、修理代金は無料ですが、出張料を別途申し受けます。また、遠隔地への出張修理は、出張に要する実費を申し受けることがあります。
- お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証書は引き続きお使いいただけます。移転先のコルグ製品取扱楽器店、またはコルグ本社営業サービス係までお問い合わせください。
- 保証期間が切れますと修理は有料になりますが、引き続き製品の修理は責任を持ってさせていただきます。修理用性能部品(電子回路など)は通常8年間の基準に保有しております。ただし外装部品(パネルなど)の修理は類似の代替品を使用することもありますのでご了承ください。
- この他アフターサービスについてご不明の点は下記までお問い合わせください。

株式会社 コルグ

本社営業サービス係 〒157 東京都世田谷区南烏山4-28-20 ☎03-309-7001代

大阪営業所 〒530 大阪市北区茶屋町18-21 豊崎ビル3F ☎06-374-0691

名古屋営業所 〒466 名古屋市昭和区八事本町100-51 ☎052-832-1419

福岡営業所 〒810 福岡市中央区白金1-3-25 第2池田ビル1F ☎092-531-0166

※北海道地区のリペアについては、下記にお問い合わせください。

株式会社 アッシュ 〒064 札幌市中央区北3条西26 ジークレフ326ビル1F ☎011-642-0801

WARNING

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

※この英文は日本国内で購入された外国のお客様のための注意事項です。

KORG

株式会社コルグ

■本社:東京都杉並区下高井戸1-15-12〒168 ☎(03)325-5691(代) ■東京営業所:東京都世田谷区南烏山4-28-20 ☎(03)326-9501 ■大阪営業所:大阪市
北区茶屋町18-21豊崎ビル3階〒530 ☎(06)374-0691(代) ■名古屋営業所/ショールーム/スタジオ:名古屋市昭和区八事本町100-51〒466 ☎(052)832-1419
■福岡営業所:福岡市中央区白金1-3-25第2池田ビル1F〒810 ☎(092)531-0166